

# ミニヨコノミライトキセキ



NPO 法人 ミニシティ・プラス  
+  
ミニヨコ市民たち

## 目次

ミニヨコヒストリー	4
ミニヨコノキセキトミライ	11
ミニヨコエピソード集	13
第1回とは思えない、本格的なまちで、ビックリした！（こどもスタッフ）（2007年）	13
ミニヨコハマシティのテーマソングをみんなでつくる（2007年）	14
ミニヨコ初の市長選挙（2007年）	17
ミニヨコは環境に配慮したまち～ゴミステーションの取り組み（2007年）	19
本格修行をしてケーキやさんを開く（2007年）	21
大人の悩み相談室の開設（2007年）	22
NHK おはよう日本で全国放送（2007年）	24
ニコニココンビニをつくりたい（2007年）	25
そば打ち～チャーハン屋さん（2007年）	26
ミニヨコ市長副市長のNHKFM出演（2007年）	27
こども環境学会で大人の研究者に混じり、こどもたちが発表しました（2007年）	28
パシフィコ横浜で開催された「だがしや楽校」に出店（2007年）	29
夏休みに市役所を訪問しました（2007年）	31
ミニいちかわに参加した。そしたら「泥棒」という職業の人がまちにいて、 店のものを盗もうとするので、ビックリした（2008年）	32
まち・みらい・ゆめ～U-19シンポジウムを開催（2008年）	34
いざ、ドイツへ！ミニミュンヘンとベルリンを訪問（2008年）	53
こどものまちEXPO（2009年）	58
横浜市歌Hip-Hop Versionを創る！（2009年）	63
ミニヨコハマシティinハウスクエア横浜！（2010年）	65
千葉から参加し立候補した副市長！（2009年～2010年）	66
なごCityへミニヨコ参上！（2010年）	67
3月震災のためミニヨコ中止、5月ミニヨコ畑開始、 8月トリエンナーレ参加（2011年）	68
ミニヨコinハウスクエア横浜（2012年）	71


<b>ミニシティ・インタビュー</b> .....	<b>73</b>
It's a small CBT( イッツアスモールシービーティ ) .....	74
とさっ子タウン .....	77
エンジョイスマイルさがみ .....	80
仙台こどものまち .....	83
ミニいちかわ .....	86
ミニ☆大阪 .....	89
だがねランド .....	92
ミニヨコハマシティ .....	94
< 日本の minicity リンク集 > .....	97
< 世界の minicity リンク集 > .....	101

## ミニヨコヒストリー

2006.10	ミニヨコハマシティ研究会発足	
2007.1	ミニヨコハマシティ運営市民 & 市長応募開始  募集チラシ	
2007.3.4	はじめての「こどもワークショップ」in ハウスクエア横浜 参加約 50 人	
2007.3.17-18	第 1 回ミニヨコハマシティ  2007 報告書 PDF 2007 ミニヨコ写真集 市長演説会ビデオ 市長所信表明演説ビデオ ミニヨコ PR 動画 ミニヨコイメージ動画 ミニヨコ 2007 チラシ	
2007.4.8	NHK FM にミニヨコ市長、副市長が出演	

2007.4.29	こども環境学会でミニヨコ市民らが事例発表	
2007.5 ~	毎月こども会議開催	
2007.8.6	都筑阪急・モザイクモール港北での店員研修 & デパート見学	
	<a href="#">夏休みミニヨコ 2007 チラシ</a>	
2007.8.9	ゲームができるまで講座（大手ゲーム会社のクリエイターを講師に招く）	
	<a href="#">夏休みミニヨコ 2007 チラシ</a>	
2007.8.21	都筑阪急・モザイクモール港北で「ミニ・ミニヨコハマ☆オープン」	
	<a href="#">夏休みミニヨコ 2007 チラシ</a>	
2007.8.23	ミニヨコ市民☆市役所訪問（こども青少年局長との意見交換会）	
2007.8.26	ミニヨコ市民交流バーベキュー大会（旭区こども自然公園にて）	

<p>2007.9.16</p>	<p>エンタテイメント講座（ミニヨコハマのテーマソング「ミニヨコ最高！」が誕生）</p>	
<p>2007.10.7</p>	<p>区民交流元気カーニバル出演（「ミニヨコ最高」を歌って踊る）</p>	
<p>2007.10.17</p>	<p>ミニヨコシンポジウムを BankARTStudioNYK で開催</p>	
<p>2007.10.27-28</p>	<p>だがしや楽校に出店（ネイルアート &amp; 心霊写真館）</p>	
<p>2007.12.22</p>	<p>ミニヨコクリスマスパーティ</p>	
<p>2008.3.29-31</p>	<p>第2回ミニヨコハマシティ☆オープン</p> <p><a href="#">ミニヨコチラシ</a></p> <p><a href="#">2008 報告書 PDF</a></p> <p><a href="#">2008 ミニヨコ写真集</a></p> <p><a href="#">市長演説ビデオ</a></p> <p><a href="#">ミニヨコ学校</a></p> <p><a href="#">MHK ミニヨコ放送局</a></p>	

<p>2008.6.1</p>	<p>ハマっこイベント大賞授賞 まち・みらい・ゆめ～U-19 シンポジウム in 赤レンガ倉庫</p>	
	<p>U-19 シンポジウム写真集 当日プログラム</p>	
<p>2008.8.5-15</p>	<p>ドイツ・ミニミュンヘン &amp; こどものまち世界会議参加 in ベルリン</p>	
	<p>ドイツ訪問写真集</p>	
<p>2008.8.-10</p>	<p>シンガーソング・ライト連続講座開催 ～戸塚のまちの歌「だいすきとつか」が生まれる</p>	
	<p>シンガーソング・ライト講座チラシ 「だいすきとつか」本番動画</p>	
<p>2008.12.- 2009.2.</p>	<p>こどもが創るまち・コーディネーター養成 連続講座開催</p>	
<p>2009.2.22</p>	<p>こどものまち EXPO キックオフ全国シンポジウム</p>	
	<p>チラシ</p>	

<p>2009.8.7-9</p>	<p>こどものまち EXPO 第3回ミニヨコハマシティ (全国のこどものまちの大使館出店)</p>	
	<p><a href="#">2009 報告書 PDF</a>  <a href="#">2009 ミニヨコ大栈橋ホールチラシ</a>  <a href="#">2009 ミニヨコ開催コマーシャル</a>  <a href="#">2009 ミニヨコハマシティ大さん橋ホール写真集</a>  <a href="#">第2回こどものまち世界会議 in 横浜写真集</a>  <a href="#">チラシ</a>  <a href="#">チラシ裏</a>  <a href="#">大さん橋ホール会場図</a></p>	
<p>2009.8</p>	<p>横浜市歌 Hip-Hop プロジェクト</p>	
	<p><a href="#">横浜市歌 Hip-Hop バージョンビデオ</a>  <a href="#">横浜市歌 Hip-Hop お手本</a>  <a href="#">横浜市歌 Hip-Hop メイキングビデオ</a></p>	
<p>2010.3</p>	<p>横浜市歌あらめや音頭にコーラスとして参加</p>	
<p>2010.3.26-28</p>	<p>第4回ミニヨコハマシティ in ハウスクエア横浜</p>	
	<p><a href="#">2010 ミニヨコチラシ</a>  <a href="#">2010 報告書 PDF</a>  <a href="#">2010 ミニヨコ写真集</a></p>	
<p>2010.7</p>	<p>ミニヨコなつまつり</p>	



<p>2010.8.13-14</p>	<p>こどものまち全国交流サミット in 名古屋 &amp; なごや子ども City にミニヨコ市民 10 人が参加</p>	
<p>2010.9</p>	<p>横浜青年会議所「かながわ力大賞授賞」</p>	
<p>2011.1</p>	<p>ミニ・ミニヨコハマ in ショッピングタウンあいたい</p>	
<p>2011.5.1</p>	<p>ミニヨコ運動会開催 &amp; ミニヨコビレッジで畑作業を開始</p>	
<p>2011.7.2</p>	<p>ミニヨコビレッジにちいさなハウス建設</p>	
<p>2011.7.16-17</p>	<p>ミニヨコなつまつり</p> <p><a href="#">ミニヨコなつまつりチラシ</a></p> <p><a href="#">2011 ミニヨコなつまつり報告書 PDF</a></p>	
<p>2011.8.10-14</p>	<p>ミニヨコアートビレッジ &amp; U-19 シンポジウム (ヨコハマトリエンナーレ特別連携プログラム・新港ピア会場)</p> <p><a href="#">2011 アートビレッジ報告書 PDF</a></p> <p><a href="#">2011 ミニヨコアートビレッジができるまで</a></p>	

2012.3.10-11	ミニヨコにおいでよ（第5回ミニヨコ開催）  <a href="#">2012 ミニヨコ報告書 PDF</a> <a href="#">2012 ミニヨコチラシ</a> <a href="#">2012 ミニヨコ写真集</a>	
	その他の資料  <a href="#">2007 ミニヨコ市民ヒアリングシート</a> <a href="#">2008 ミニヨコ市民ヒアリングシート</a> <a href="#">2009 ミニヨコ市民ヒアリングシート</a>	

# ミニヨコノキセキトミライ

～キミがいないとこのまちははじまらない～

いつから私たちのくらす、この「まち」ができたのだろう。

人が誕生してからずっと、つながっている歴史の中で、今のまちの形になったのはいつごろなのだろう。

今の社会のしくみを簡単に変えることはできないと大人である私たちは思い込んでいるような気がする。

もしも今の日本の、世界の社会のしくみについて、あまり知識のない子どもたちがまったくはじめの一步から、まちをつくろうということになったら、いったいどんなまちになるのだろうか？遊びの中から生まれるまったく新しい「こどもたちの創るまち」は、私たちに「楽しくなかよく暮らしていく」という当たり前のこと……その原点を教えてくれるかもしれない。



もしもなにもないまっさらな場所にまちをつくるとしたら、まずなにを造る？

まちを創るシュミレーションゲームがあったら、最初に創るのは、自分のすむ家？

それとも遊びの場所？公園、森や川？お店？

そして、その中でなにをしたいかと聞かれたら、あなたはなんと答えるだろうか。

こどもたちはいとも簡単に、迷わずやりたいことを述べる。

「歌手かケーキ屋さん」「楽しい公園を造りたい」「お花いっぱいのでまちにしたい」

「妖怪の来そうな道を造りたい」「コンビニの店長やってみたい」などなど……

それぞれのこどもたちの描くオリジナルなストーリーを組み合わせ、こどもたちが自分の夢を他のこどもに、大人に、伝えていき、それをみんなで、ちいさなまちの中に落とし込んで行き、ミニヨコハマシティは生まれた。

まず自分のやりたいことありき。そして「自分のやりたいこと」がまちの中でどんな役割を果たしているのか、自分がやりたいことをするために必要なしくみはなにか？を他のみんなと考えていった。

まちの中はいつも足りないものだらけで、いつも互いのこどもたちの力を必要としていた。自分たちの小さなまちを世界一すてきなまちにしたい、という願いをみんな持っている。そういう気持ちを私たち大人は現実のまちに対して、忘れてしまっていないかな。私たち大人はミニヨコハマシティを通して、「楽しくなかよく暮らしていける」まちづくりを一緒に体験しているのかもしれない。

## こどもたちの成長 \*\*\*\*\*

この数年間を通して、このミニヨコハマシティにかかわってきたこどもたちは、大きく変化してきている。おかあさんが NPO 会員だから、なんとなくお手伝い、で当時来てくれた中絢音さんは、昨年高校 3 年生のとき、ミニミュンヘンとベルリン世界会議にいき、「こどものまち」の社会での意義をテーマに、大学の推薦入試でプレゼンし、見事合格した。その後は大学生になり、語学の勉強をしながら、ミニヨコの運営市民の中心にいる。彼女は「まちは大人たちだけにまかせておけない。自分たちもよりよくすてきに変えていける」「ちいさなこどもたちが夢をもてるような環境をつくりたい」と話してくれた。

市長を 3 年務めた三浦絢佳さんは、最初のころは、アナウンサーになりたいといていたが、今は、学校の先生になりたい、と大学で保育や教育の勉強をしている。一人っ子だからミニヨコのこどもたちは兄弟姉妹のようで、うれしいという。「小さい子たちの意見にはいつも驚く、みんなをまとめるのは大変だけど、楽しい」「自分もまわりのこどもたちも、一緒に成長していく、それを感じるのがうれしい」という。大人になっていく過程の中で、ミニヨコは大きな影響を及ぼしていて、なかなか自分の意見をいえなかったり、伝え方がへただったりしたこどもたちが、ちゃんとまわりの人たちと協調しながら、発言していけるようになっていっている。それを強く感じるという。

当時 6 年生で副市長になり、2010 年の選挙で市長になった木原正絵さんは、ドイツのミニミュンヘンやベルリンでの世界会議で堂々と英語で、ミニヨコの発表をした。最初にこどもの中のいじめをなくしたい、そういう会議をミニヨコでやりたいといていた彼女は、2 回目にこども会議を実現し、昨年行なった U-19 シンポジウムでも、最年少キャストで活躍した。「自分たちは、大人たちの社会的政策にふりまわされている、ゆとり教育をやって、だめなら廃止、そのような“はざま”にいるこどもたちのことをもっと考えて欲しい」という。一方「ミニヨコの大人スタッフと接し、大人も悩んだり、苦しんだりするんだ、と身近で感じた」という。いい顔をして、大人ぶる大人が多い中、ミニヨコの大人はストレートにこどもと接しているから、そう感じただのだと思う。他にも「近所の人に思い切ってあいさつを試してみたら、すごくイイ感じで話せるようになった。あいさつは大切だからミニヨコの中でもみんながなかよくあいさつできるようなまちにしたい」という。

こんなこどもたちが大人になって、ワクワクしながら仕事をしたり、まちにかかわったりしていけば、絶対にすてきに暮らせるまちができていくに違いない。

こどものまちは何度失敗してもまたやり直せるから、チャレンジしてみることができる。だから、いろいろチャレンジして、大人になって行って欲しい・・・

NPO 法人ミニシティ・プラス公式 HP：<http://minicity-plus.jp/>

2012 年 3 月 10 日

NPO 法人 ミニシティプラス 副理事長 岩室晶子

## ミニヨコエピソード集

### 第1回とは思えない、本格的なまちで、ビックリした！（こどもスタッフ）（2007年）



はじめてのこどものまちは、小学1年～高校1年までの運営市民56人が大人スタッフといっしょに奮闘し、生まれました。まちを歩いているこどもたちが、本当に、ニコニコ笑いながら、楽しそうにしていました。大人スタッフを見つけて走ってきて、いろいろ報告してくれるのです。

「ねえ、みてみて！ヘアネイルでやってもらったの。こんな髪型はじめてやってもらった。似合う？」

「おきゃくさんがどんどん来て、もうお店はパンクだ～～。儲かる～～。大金もちだあ。」

ちいさな男の子が大量のポップコーンを売り歩いてたけど、あまり売れているように思えないので心配になって「どう？ポップコーン売れた？」と聞くと、うれしそうに「売れたよ！」という答え。30個くらいの紙コップにいったポップコーンがあったので、「どのくらい売れたの？」ときくと、「ひとつ!!」とうれしそう。大人スタッフである私は、「よかったね」と話しながら、心の中で「たったひとつなんだ。でもたったひとつでも売れたこと、こどもたちにとっては、それが大きいんだ。たくさん売れなくてもひとつでも売れば、うれしいんだ」と思いました。

連日の裏方作業で疲労困憊してたのですが、こどもたちの楽しそうなようすに、疲れがふっとびました。

## ミニヨコハマシティのテーマソングをみんなで作る（2007年）

「ミニヨコ最高！」という曲はミニヨコ市民が協力して作った曲です。そして、ダンスも付けみんなで大変でした。でも、市長さんと副市長さんと一緒にできたことがとても嬉しかったです。そして、何よりも、みんなで作った曲を発表するときがとっても嬉しかったです。もしまた機会があったらやりたいと思いました。



2007年3月最初のミニヨコでは、ステージを作っておけば、きっと子どもたちがなにか歌ったり、ダンスしたり、漫才？したり、するだろうと思いましたが、ステージでは、市長選挙演説会が行われただけで、他には、なにも起こりませんでした。

私は音楽家なので、「こどものまちに音楽が必要じゃない？やろうよ、自分たちで曲をつくって、歌って踊ろうよ」と興味のある子たちに呼び掛け、作品を一緒につくりました。まずベースになるコード進行を当時小学4年だったミニヨコ市民の息子に考えさせ、カラオケをつくり、それからラップにできそうな部分とサビのメロディをつくって、子どもたちに投げかけました。そうしたら、子どもたちは作詞をするチームをつくり、勝手に集まり、歌詞を完成させました。

それがあまりにもよくて、感動したのを覚えています。とくに「これから創るぼくらのまちはひとりひとりの希望が、いっぱいいっぱい詰まってる。新しいクレヨンみたいに〜」というところ。プロの作詞家にもなれそうな、新鮮さがあります。せっかくできたんだからと、私の自宅でレコーディングをしました。希望者が殺到、玄関は靴

だらけ。16人の男の子女の子が交代で歌い、レコーディング。CDに焼き、完成しました。

せっかくできた曲にダンスの振り付けを考えることになり、今度はダンスのチームが出来ました。できたものをプロの振り付け師に見てもらいました。この年は、JTの助成金をもらっていたので、それらの費用を出すことができました。ダンスのレッスンには30人以上が参加しました。この曲は節目節目に披露してきました。

その後ドイツに行き、ミニミュンヘンとベルリンで披露することになり、一部ドイツ語に訳したバージョンもつくり、現地で披露しました。今聴いてもわくわくするミニヨコの楽しさが詰まった曲です。

以下が歌詞

## ミニヨコ最高!

☆ Crap Your Hands Crap Your Hands

Say Yes! Yes!

ミニヨコ最高 Yeah! ★

これからつくるぼくらの街は

ひとりひとりの希望がいっぱいいっぱい詰まってる

新しいクレヨンみたいに キミの好きな未来描こう

こどもにしか見えない何かがあるから

それを見つけ出そうよ

みんなで SO! みんなで Yes! いっしょにつくろう

街の色 風のおい すべてのがかわっていくよ

キミとなら なにもかも 輝いてみえるよ

はじめてキミと出逢った日から

世界がすこしずつ変わっていく

生まれたばかりのこの街で

さあ なにしよう なにつくろう

泣いたり笑ったり けんかして仲直り

すべてが大切な宝物だよ

キミがいないとこの街ははじまらない

☆～★ Repeat

そして はじまりははじまりはいつも  
やるぞ!という気持ち大切だよ  
終わりのない終わりのない夢を  
みんなと一緒に作りあげていく

はじまりははじまりはいつも  
突然 キミとボクの出逢いからだよ  
終わりのない終わりのない夢を  
ずっとずっと未来へつなげる

☆～★ Repeat

キミの声 あふれるスマイル  
みんなが集まってくるよ  
キミとなら 歩けるよ 新しい街へと

☆～★ Repeat

そして はじまりははじまりはいつも  
キミと出逢ってからスタート切ってる  
終わりのない終わりのない夢を  
胸に抱いて扉をひらこう

はじまりははじまりはいつも  
キミとボクが手をつないだ瞬間  
終わりのない終わりのない夢を  
握りしめて明日へと羽ばたこう

[動画\(音楽のみ\)へリンク](#)



## ミニヨコ初の市長選挙（2007年）

第一回の運営市民募集の紙の裏にある「何のしごとをやりたい?」という欄の上に小さく書いてあった「市長選に出たい?」の募集欄。そこになんとか○をつけたけど、'市長'って何するのか分からない上に「ミニヨコ」すらも一体どんなものかよく分からないままにステージに立った6人の候補、私はその中の一人でした。当時小6で、どこを見てどう伝えて良いのか全く分からず、ぐだぐだな演説になってしまったのですが、他の候補者は、驚くほど堂々とはきはきと筋道をたてて演説していて、同じステージに立ちながら'凄いなあ'と思っていました。特にその中でも印象に残ったのが最年少で当時小2の子。4つも年下なのにたくさんの知らない人に囲まれて堂々と話している姿がとても格好よい、と思いました。同時に自分の話がすごく恥ずかしく感じたのも覚えています。その時は本当に外れると思っていたのに、副市長に選ばれ、やらせていただくことができました。今思うと、当時のあのぐだぐだな演説と周りの年下の子たちからのプレッシャーがなければ今の私の存在はなかったのかな、と思っています。そんな思いもあって、色々な意味で初代の市長選は印象に残っています。



このエピソード書いたのは、写真左の木原さんです。

最初のミニヨコ開催のとき、次回のまちはこどもたちを中心につくってもらおう、と、ミニヨコ市長募集と書いたチラシをつくりました。まわりの大人スタッフに、市長選に出たいこどもなんて、ひとりもないんじゃないの? と心配されましたが、最初の応募で実は9人もいたのです。

3月の最初のこども会議で話し合い、自分のお店の準備計画をしていると、3人が「お店に集中したいので市長選は取りやめます」といって辞退してきました。最後に市長選に立候補した6人は、女子4人と男子2人でした。

小学2年～中学2年まで幅広い子どもたちが立候補し、どうどうと次回の「ミニヨコハマシティ」をどんなまちにしたいか、マニフェストを発表していました。当選したのは一番年上の中学2年生三浦絢佳さんでした。

どんな解説よりも、ぜひ市長選の演説を見てください。

[市長演説会 2007](#)

[市長所信表明演説 2007](#)

## ミニヨコは環境に配慮したまち～ゴミステーションの取り組み（2007年）

最初のミニヨコに「横浜市はG30」のイメージキャラクターの「ヘラ星人ミーオ」の着ぐるみが登場しました。これはゴミステーションを運営していたミニヨコ市民が、事前に都筑区役所を訪れ、ミーオくんの着ぐるみを借りていたのです。当日、ミーオくんは大人気！中に入っていたのももちろんミニヨコ市民。たくさん子どもたちとじゃんけんをしたり、写真を撮ったりしました。撮った写真はその場でプリントして、かわいくペイントして、プレゼントしました。しかし、あまりの人気ぶりに身動きがとれなくなり、移動するにもひと苦労でした。又、ゴミステーションの市民たちは、区役所でゴミの分別についておしえてもらい、みんなに指導できる位、きちんと勉強していたので、お客さんがきれいに気持ちよくミニヨコハマシティを楽しめたのではないのでしょうか！



まさかゴミステーションをやりたい、というこどもがいるとは思わなかったのです。もっとも嫌がりそうなゴミの処理。それを楽しくゲーム感覚で行う感性に大人は驚きました。

都筑区役所に最初は大人がついて行って、こどもたちから、「こんなことをやりたい」と直接話してもらいました。

そうしたら次からはこどもたちが直接学校帰りに区役所に毎日のように寄り、ゴミの分別について区役所職員に相談していたらしいのです。その熱意に打たれてか？ミーオくんや大きなパネル、分別用ゴミ箱を区役所職員が会場まで届けてくれました。

なんとミニヨコのまちは会場エントランス真ん前にゴミステーションがあるという、すごいまちになりました。クイズは「牛乳パックは古紙である、イエス or ノー」というように、行われ、正解者にはミーオくんのグッズがもらえるしくみでした。ゴミステーションを行なったこどもたちは「ミニヨコのまちをきれいにしたい」と最初の応募用紙に書かれていたとおり、きれいなまちを実現したのです。主にミーオくんに入っていたのは、中学生の女の子なんですよ。

この最初のゴミステーションのインパクトで、その後もミニヨコのまちにはかならず、おしゃれなゴミステーションが出現しています。

## 本格修行をしてケーキやさんを開く（2007年）

「ケーキやさんを開きたい」という小学6年生が応募してきました。大人たちは、ケーキを焼くのにどれだけの手間がかかるかをよく知っています。卵を泡立てる、バターをクリーム状になるまで練る、オーブンでいねいに焼く・・・などなど。だからこどものまちで「ケーキなんか焼けるはずないじゃん」となるのです。でもなんとか夢を叶えたい！そこで考えたのは、ホットケーキを焼き、それにデコレーションしてケーキにしたら？という方法でした。



メンバーがよく買い物しているという「スグーリ」というセンター南のケーキ屋さんに、「こどもたちのケーキ屋さん修行をさせてもらえないか」とお願いしてみたところ、あっさり快諾してくれました。学校が終わったあと18時頃にみんなでお店に押しかけ、おいしいホットケーキの焼き方と生クリームのきれいな絞り方を教えてもらいました。こどものまちで、あまり予算がない中、ケーキらしいトッピングのアイデアとして、高価ないちごの代わりに、

いちごにも見える、アポロチョコレートにトッピングしたり。生クリームのトップに載せるとすごく可愛らしくてこどもたちは大満足でした。あとからわかったのですが、スグーリさんには3人のお嬢さんがいて、その後ミニヨコ市民になり、大活躍してくれました。自分の娘と同じくらいの女の子たちがいるお父さんだからなおさら、こどもたちに優しくていねいに教えてくれたに違いありません。

当日は彼女たちはパティシエになったつもりで、自信をもってケーキ屋さんをやることができ、お店は大盛況でした。

## 大人の悩み相談室の開設（2007年）

なにがきっかけでそういう相談室が生まれたのか、よく覚えていないけれど、大人の悩み相談室を子どもたちが行ない、大人にたいへん好評でした。



とくになんの研修も受けていない、資格もない（笑）アルバイトの子どもがズバツと大人の悩みに答えてくれる、「大人の悩み相談室」。この大人の悩み相談室は、毎回ミニヨコに登場し、さまざまなエピソードを残してきました。たまたま2人の大学の先生が、視察をかねて、ミニヨコに来ていて、悩みを相談したと聞きました。

II先生（女性）：朝起きられないんですが、どうしたらよいでしょうか。

小1女子：目覚ましはかけていますか？

II先生：3つもかけてます。私は気持ちよく、目覚めたいんです。

小1女子：そうですか・・・う～ん（と少し考えてから）それではまず、ミントの飴を枕のそばに用意してください。目覚ましがなったらまずすぐに口に入れてください。さわやかに起きられます。

II先生：ありがとうございます、さっそく明日からやってみます。

K先生（男性）：最近中学生のこどもが誘っても一緒に買い物とか旅行に行ってくれないのですが、どうしたらいいでしょうか。

中1男子： それでは聞きますが、毎日夕食を一緒に食べていますか？

K先生： いいえ。ほとんど一緒に食べていません。

中1男子： まず、一緒にご飯を食べるところからはじめたほうがいいです。中学生くらいは美味しいものを食べるとうれしいので、レストランと一緒にいくのもいいと思います。そういうことから始めると、一緒に旅行も行きたくなると思います。

K先生： わかりました、やってみます。

なんて的確ですてきな回答なんですか。その後も大人の悩み相談室はミニヨコのまちで続き、大人気です。

## NHK おはよう日本で全国放送（2007年）

3月17日、朝の5時くらいに、集合して、NHKの番組、おはよう日本にみんなで出ました。寒かったけど、楽しかった。



最初のミニヨコは、おはよう日本で全国放送の取材が入ったのです。なにしろ、生中継ということで、事前のこども会議に、アナウンサーさんがこられ、ていねいに子どもたちにヒアリング。当日は朝5時に集合してください、リハーサルをします、と言われてました。ミニヨコ初日の朝、まだ真っ暗なうちに自転車で家を出て、会場のハウスクエア横浜に向かいました。この日は3月も中頃なのに、朝パラパラと雪が降っていました。

朝5時にカメラリハがきっちり行われて、全国放送と関東版の2回出演。こどもたちは何ども同じセリフを練習したため、最初は自分の言葉で話せていたのに、最後はなんとなく、セリフを言わされてるみたいになってしまいました。

こんな早く子どもたちがくるのは大変だったと思うのに多くの子どもが出演し、大変な反響がありました。ずっと会ってない人や田舎のおばあちゃんから見たよと電話があつたりした人もいたようです。すごいぞ、NHK全国放送！



## ニコニココンビニをつくりたい (2007年)

なんでもうっているすてきなコンビニをつくりたい、と絵を書いてくれたのは、当時小学2年で市長選にも立候補したAさん。ちなみに彼女の市長選立候補の公約は、ミニヨコをお花でいっぱいのもちにする、ミニヨコを賑やかにするために、お店をたくさんつくる、そしてサーカス団もつくるといった内容でした。

ニコニココンビニは、気の合う男の子2人のサポートを経て、ミニヨコストリートに開店しました。

彼女が最初に書いた理想の「ニコニココンビニ」のスケッチです。



実際にできたお店は、私たち大人スタッフから見ると、とてもこの絵とは違う、おまつり用テントと机だけのお店に見えました。品物はなるべく要望に添うように、缶バッチのマシーンを用意したり、アクセサリーが作れるように工夫したりしたのだけど、このコンビニのような品揃えはできなかったのです。

恐る恐る「どう？思っていたお店になった？」と聞いたら、彼女はにっこり笑って「うん。お客さんがたくさん来て、たくさん売れたんだよ」と私に嬉しそうにしてくれました。

大人は想像力がないだよね、きっとこのコンビニが彼女の中には生まれているんだな、って私はそう思いました。

## そば打ち～チャーハン屋さん（2007年）

ミニヨコ市民の応募用紙のやりたいこと欄に「そば屋をそばを打つところからやってみたい」と中学3年生男子3人が応募してきました。



「そば打ちをしてみたい」って男の子っぽくていいじゃない、と私はそば打ちをやっている知り合いのおじさまに電話で問い合わせしてみました。そしたら「そばを初めてやるのに、2週間後にお客さんに売るだって～～。無理無理。1年間修行して、来年だね」とあっさり叱られた。

そのままを彼らに伝えて、そば打ちは修行が必要だからすぐにはできないって言われたよ～と言うと、「じゃあ考えます」といって、「やきそばかチャーハンで迷っている」といっているの、内心やきそばが簡単でいいんじゃないのとそうしてほしいな、と思っていたら、彼らから電話があり、「チャーハンになりました」という。

「チャーハンね、じゃあまずはお飯を炊くところからはじめてね、炊飯器は貸してあげるから」といって私は自分の自宅の炊飯器を貸し出すことになりました。

本番が近づいたある日、私に男の子の保護者から電話があり、「すみません、うちの子ども、ろくに料理なんてやったことないのに、チャーハンをつくって、イベントで人に出すっていつてるんですけど、ぜったいに無理です。」と言われました。私は「やりたいといっているの、挑戦してもらったらいいと思いますがどうでしょう。現金で売るわけじゃないし、こどものまのこどものお金ですから」と説得。

そうやって2度の「無理」を乗り越え、チャーハン屋さんは開店しました。

私は当日、こどものまなので、こども達まかせですから、ほぼ放置していたのですが、チャーハンに使う、炊きたてのお飯を運んでる最中に地面に炊飯器ごと落としたりして、わーわー言ってたのをチラ見しました。最初はあまりおいしく出来なかったらしいです。油っこく、野菜もすごく大きくて、生のままごろごろ入っていました。次の日にはだんだん上手になっておいしくなっているらしく、行列ができて繁盛していました。とても彼が楽しそうに作っていて「やきそばの方が簡単でいい」なんて思っていた私は反省しました。

## ミニヨコ市長副市長の NHKFM 出演 (2007 年)

ミニヨコ終了後、すぐ、ミニヨコ市長副市長の NHKFM 出演依頼があり、生放送で出演しました。



← NHKFM にて

横浜市中区にある、NHKFM に出演したのは、はじめての市長選挙で当選した、市長三浦さん（高校1年生）とい木原さん（中学1年生）でした。おしゃべりが大好きで、NHKFM に出られることがうれしくてしかたない、というようすで、まったく緊張することもなく、スムーズに収録が終わり、聞いていた人の反響もとてもよかったです。

この頃からメディアへの登場が多くなり、新聞などにもこの2人を中心にガンガンのりました。

この年の朝日新聞の記事に掲載されたことで賞ももらいました。



## こども環境学会で大人の研究者に混じり、こどもたちが発表しました(2007年)

こども環境学会という、こどもを取り巻く環境について研究している学会の大会が横浜で開かれました。そのゲストとして大人の教授たちに混じって、ミニヨコのこどもたちが発表しました。学会では分科会に分かれていましたが、こどもたちの発表は関心が高く、会議室に入りきれないくらい多くの人が集まりました。大人たちを前にミニヨコのこどもたちが堂々と発表しました。

ミニヨコの活動について話したあと、質問が飛びました。印象的だった質問は、

大人： 私は社会科の教科書をつくっているのですが、実際に学校の社会科の時間に学んだことで、実際のまちとつながったりしたり、勉強になっていることはありますか？



中学2年女子：私にとって、学校の社会の勉強は、中間テストや期末テストのために、覚えることが多くて、実際に社会とつながったことはないです。

大人： が~~~~ん といった具合。

この中学2年の彼女は、ミニヨコでは占い屋さんを経営したのですが、友達のケーキ屋さんが忙しいときには手伝ったりしていました。

その体験で感じたことを次のように述べています。

「私は、いままで街で買い物をしても、とくになにも考えずに買い物していました。今回のミニヨコハマシティのまちでわかったのは、街の中に、なにかをつくるひとがいて、それを売る人がいて、さらにそれを買う人がいる、そのどれが欠けても、まちは成り立たないのだ、それが社会というものなのだ実感しました。お店にいくと、お店の人やお店の人の売り方、お店のレイアウトの仕方などにも興味が湧き、どのような人がそれを買うのかということ想像するようになりました。ミニヨコに参加して、街の中をよく見るようになりました。」

## パシフィコ横浜で開催された「だがしや楽校」に出店（2007年）

パシフィコ横浜で開催された「だがしや楽校」で、ミニヨコはネイルのお店と心霊写真館をやりました。

心霊写真館は大人に人気で、本当はこどもたちのためのイベントだったけど、大人にどんどん心霊写真撮ってあげました。

だがしや楽校というイベントがパシフィコ横浜で開かれて、ミニヨコ市民が出店参加することになりました。こどもたちがやりたい出し物の希望は「おばけやしき」でした。

写真館の壁に穴が空いていて、写真を撮ろうとすると、穴から手が出てきたり、穴からのぞく人の目が見えたりして、それをバックに写真をとってあげて、その場でプリントしてプレゼントするのです。

とてもユニークな写真館ですよ？小さい子はお化けが後ろに出ているのが怖くて、ドキドキしながら、写真を撮られてました。大人たちからも撮って欲しいとリクエストがあり、子どもたちはこどものお金を持っていない大人に無料で撮ってあげていました。

このお店では「おばけ役」のアルバイトを募集していましたが、穴から手を出したり、覗いたりするだけなので、園児でもできることから、人気のアルバイトになっていました。



左の写真が、写真館内部。

右の写真が、手や顔が覗いている撮影のようす。

横に座っているのシートのおばけにも人が入っています。



この写真館の看板をつくるのに、怖い写真やイラストをダウンロードするからパソコンを貸して、と言われて、こどもに貸してあげました。できた看板は本当にこわいものになりました。

私のパソコンのデスクトップにその子が作った「怖いもの」と書いたフォルダが見つかったので、怖いものみたさで覗いてみると、そこには「貞子」の写真など、ホラーな写真が何枚か入っていました。その他に白い紙を撮した写真がありましたので、拡大してみるとそれはなんと、

携帯電話のパケットの使いすぎによる、100万円を超える請求書でした。この当時は、月極で固定のパケット使用料という概念がなかったのです。高額な請求書・・・確かにおばけの写真よりもこわい!と、きゃーと言いたくなりますよね。それが「怖いもの」というフォルダに入っているという、その子のセンスにびっくりしました。今その子は、キレイのいいセンスのある、高校生になっています。



## 夏休みに市役所を訪問しました（2007年）

夏休み、市役所のお仕事を見学をするツアー「子どもアドベンチャー」にミニヨコ市民、20人程が参加しました。せっかく市役所に行くので、市役所のこども青少年局の職員の方たちとの意見交換会をしてもらいました。

局長さんをはじめ、大人の職員さん10名以上が集まりました。ミニヨコの説明を大人からしたあと、こどもと大人がお互いに自己紹介をし、そのあと、お互いに質問をしまいましたが、こどもたちからの質問がたくさんでしたので、どちらかという、こどもたちからの質問に職員が答えるという状態になりました。



こどもたちからはこんな質問ができました。

Q：横浜市がこどもと呼んでいるのは何才までですか？

A：横浜市のこども青少年局では、生まれる前のお母さんのおなかにいるときから、34才までという年齢の方に関する業務を行なっています。

ミニヨコ市民： え〜〜〜！そんなに長く。

Q：市役所のお仕事は楽しいですか？

（ト書き：この質問に幹部？は部下に答えるように言い・・・誰が答えるか、みんな譲り合った上）

とある部下の職員： 楽しいこともありますが、大変なこともあります。

子どもたちの終了後の感想は「なんで、1つの質問に答えるのにあんなに時間がかかるの？思ったことをさっさといえばいいじゃん」・・・だって。

## ミニいちかわに参加した。そしたら「泥棒」という職業の人がまちにいて、店のものを盗もうとするので、びっくりした（2008年）



ミニいちかわにミニヨコのブースを出させてもらいました。射的屋さんとネイルアートのお店を開きました。まちの真ん中に大きなスペースをぶんどって、目立つ場所でしたので、お店は賑わいました。

射的屋さんでは、射的の景品がすぐになくなったので、儲けたミニいちかわの通貨「メティ」を持って、まちの雑貨を売っているお店でぬいぐるみなどを「この箱全部ちょうだい。」というように大人買い。それを景品にして、また店を続けました。

ミニいちかわには、なんと「泥棒」という職業があったのです。私たちのお店にも泥棒がやってきて、なにか盗もうとします。私たちは横浜から来ていて、泥棒のルールを知らなかったので、びっくり。警察を呼び、じゃんけんをして、警察が勝ったら盗まれないが、警察が負けたらお店のものが盗まれるというしくみらしいのです。



てなにやってるんですか〜」と叱られる始末。私は「あ。ごめん。でもさあ、店が壊されそうだったんだもん」とぶつぶつ。どちらにしても可笑しくて、その後も思い出して、みんなで大笑いしました。

私は大人だったのですが、泥棒がせっかくきれいにつくったお店を荒そうとするので、「泥棒だかなんだか知らないけど、この店のものが少しでも壊れたら、5000メティ弁償してもらおうよ!!」と真剣に怒ったら、泥棒はびっくりして帰っていきました。みんなで、「ばんざあーい。泥棒を退治したぞ!ギャハハハ」と笑っていたら、当時のミニヨコ木原正絵副市長に「ここは大人人口出し禁止のまちだよ、いい大人が、こども叱つ

ミニいちかわは公園で開催していて、のびのびと駆け回れるのがいいなと思っていたのですが、ミニヨコ市民が



まちの中を走ってはしゃいでいたら、「まちの中を走らないでください」と警察に追っかけられ、警察が所持している水鉄砲を発射され、少し濡れました。そろそろ寒くなる11月はじめ。水鉄砲は辛いので、みんなおとなしくなりましたが、「なんで公園で走っちゃいけないんだよ～。どこで走ればいいんだよ～。」ミニヨコ市民は怒ってました（笑）。

他のまちに出店すると、ミニヨコにはないしくみや職業があって、こどもたちも少しカラーが違い、おもしろい体験ができます。このときばかりは、ミニヨコは平和なまちだな～って思いました。

ミニいちかわ

## まち・みらい・ゆめ～U-19 シンポジウムを開催（2008 年）

横浜開港 150 周年の一年前、赤レンガ倉庫で、まち・みらい・ゆめ～U-19 シンポジウムを開催しました。岩崎学園の協力で、出演者（中学 2 年から大学 1 年まで）に、スタイリスト、ヘアメイク（こちらも U-19 の学生さん）をつけました。司会を担当した三浦さん曰く、「スタイリストさんに似合っているとすすめられた、白基調の服が落ち着かなかった。会場のこどもたちともやりとりする、トークバトルがおもしろくてよかった。」(2008 年)

### 【U-19 シンポジウム全容】



 <p><b>Ayaka Miura</b> みうらあやか 三浦絢佳 17才</p>	<p>☆三浦絢佳（みうらあやか）17才 高校2年生 イチゴ星出身?! strawberrycafe オーナー &amp; ミニヨコハマ市長</p>
 <p><b>Yuha Kurihara</b> くりはらゆは 栗原悠羽 17才</p>	<p>☆栗原悠羽（クリハラユハ）17才 高校2年生 読売新聞の毎週土曜日の夕刊に掲載されている、ヨミウリジュニアプレス子供記者</p>
 <p><b>Kihara Masae</b> きはらまさえ 木原正絵 13才</p>	<p>☆木原正絵（キハラマサエ）13才 中学2年生 ミニヨコハマシティ副市長</p>
 <p><b>Ayane Naka</b> なかあやね 中 絢音 17才</p>	<p>☆中絢音（ナカアヤネ）17才 横浜国際高校3年 ミニヨコTMCの代表をしています。明るく・楽しいまちをつくりたい!!</p>

 <p><b>Tatsuya Kaneko</b> かねこたつや 金子達也 17才</p>	<p>☆金子達也 (かねこたつや) 18才 NPO コロンブスアカデミー所属 野球が好きで、今はたこ焼きの修行中。</p>
 <p><b>Yui Tanaka</b> たなかゆい 田中優衣 19才</p>	<p>☆田中優衣 (たなかゆい) 19才 鎌倉女子大学、短期大学部。 保育士免許資格の為勉強中</p>
 <p><b>Takahiro Mitsui</b> みつ たかひろ 三井崇裕 16才</p>	<p>☆三井崇裕 (みついたかひろ) 16才 駒澤大学高等学校2年生 ゲーム好き。ヤマダ電気のような場所がおちつきます！</p>
 <p><b>Yoshiki Nara</b> ならよしき 奈良芳樹 17才</p>	<p>☆奈良芳樹 (なら よしき) 17才 高校二年生 剣道とアイスが大好きな高校二年生です！</p>

<div data-bbox="220 214 752 609" data-label="Complex-Block"> <p><b>Daisuke Yanagi</b></p> <p>やなぎ だいすけ 柳 大介 16才</p>  </div>	<p>☆柳大介(やなぎだいすけ) 16才</p> <p>横浜翠嵐高校2年</p> <p>硬式テニス部所属。修理、工作が得意。</p>
<div data-bbox="220 746 752 1141" data-label="Complex-Block"> <p><b>Masaki Saura</b></p> <p>さうら まさき 佐浦雅貴 18才</p>  </div>	<p>☆佐浦雅貴(さうらまさひろ)18才</p> <p>戸塚高校定時制4年生</p> <p>第四回 TMB 中高生スタッフプロデューサー</p>

## 第1部

## テーマ1 ゆめ・みらい

- 三浦： 今日のテーマのまず「夢」について。それぞれの将来の夢について聞いてみたいと思います。栗原くんは？
- 栗原： 中学か高校の先生をやりたいと思っています。
- 三井： ヤマダ電気が落ち着くと紹介でもあったけど、ゲームが好き。ゲームプログラマーかCGデザイナーになれたらいい。
- 木原： 人を喜ばせたり、楽しんでもらうことがやりたいので芸能人になりたい。
- 佐浦： 夢にこだわることはないと思っている。人生なるようになる。興味ができたらそのことをやりたい。あまり夢にこだわってない。
- 中： 今住んでいる、横浜がよりよいまちになる仕事にたずさわりたい。
- 田中： 保育士になります。今大学でがんばって勉強しています。
- 柳： いまのところぶっちゃけ、夢はない。工作とか木をつかうことが好きなので、建築に進もうかなとおぼろげに思ってるけど、まだ決まってない。
- 奈良： 剣道を十何年やっているのだから、将来活かせる仕事がいいかな。警察関係もいい。企業に入って全日本とかで上をめざしていくのもいい。
- 金子： 弁護士になりたいです。理由は金がもうかるから。
- 三浦： (会場に呼び掛け) 警察はいるかいないか。いると思う人は青、いないと思う人は赤。さいとうそら青の旗を掲げる。警察がいるという青がおおい。
- 栗原： なぜ警察がいないのか。
- 金子： 警察は税金どろぼうだから。
- 奈良： 日本はがんばっている警官がいるから治安がいいんじゃないか。
- 三浦： 実は今夢がある、ないにわかれているんです。スクリーンの方の表示をお願いします。(私のいるほうは) こっちは夢はない、ということです。
- 佐浦： 夢はないというやつまんない人間みたいにおもわれちゃう。夢はない、ではなく、「まだない」にしてほしい。
- 三浦： ごめんどめん。
- 栗原： 保育士になるという田中さん、家族の事件とか、子どもをうまく育てられない親も多いがどう思いますか？
- 田中： 虐待のことですよね。そういう親は自分も虐待されていたので、どう育てていいかわからないから子どもに虐待してしまう。迷ったら、ぎゅっと抱きしめるだけでいい。

## ～こどもたちの夢・まちについて・などのインタビュービデオ～



将来なりたいもの。夢。

栗原： いろんな夢の話出ていた。三浦さんは？

三浦： 横浜市中の子どもたちをあつめて、こどもたちのまちをつくりたい。世界中の子どもとも交流したい。

栗原： 自分のやりたいこと、夢を伝えていくにはどうすればいいか。

三浦： 「素」の自分を出していく。いつもどんなときにも素直な自分を出していく。そういうことで、かわっていくのかな。

栗原： 学校の話でていたが。学校について意見ありますか？

佐浦： 学校は、勉強がメイン。規則もきびしいし、基本的に自分は勉強がそんなに好きではない。学校は勉強ばかりのところではないと思っているので、自分は生徒会に入って学校を変えていこうとしている。さっきのビデオを見ていて、小さい10歳以下の子の方が夢があるのかなと思った。だんだん現実を知ってきちゃうと夢が消えてきちゃう。

三浦： 中さんはどうですか。

中： 私が今、学校が楽しいです。専門っぽい学校で、外国語を勉強できることが出来てるから。

木原： 勉強は好きな方なので、学校は好き。音楽も動くのも好き、わいわいやれるし、交流もできるので好き。

三井： 学校は好きですが、授業はものすごくきらい。たとえば物理の先生、自分の授業を理解していない気がする。おもしろい授業があるけど、なんか物足りない。



- 中 : 自分たちで意見を出したりして、授業を変えていけないんですか？
- 三井 : そういうこともできるかと思うけど、若干一部の人が騒いでいるだけじゃ無理かな、と思う。
- 佐浦 : 自分の学校には、おやじギャグをいっぱい言う先生がいる。おやじギャグが授業を無駄に遅らせてる。担任の先生は好き。先生によって授業は違うし、接し方も違ってくる。
- 三浦 : 会場 みんなに質問。学校は好きですか。
- 栗原 : 学校好きな人が多い。どんなところがいいのか聞きたい。
- 柳 : 自分は学校大嫌い派なので言いにくいですが、部活は楽しい。昼休は楽しい。楽しい授業のときは楽しい。公立の先生頭固い。授業が形式にとらわれてる、もっと生徒と触れ合ってほしい。
- 金子 : 学校は大嫌い。学校の規律とか、ルールがあるから。守りたくない。
- 三浦 : 学校のルールと、うるさいなーと思うことある。
- 佐浦 : 学校の楽しさって、友達ができるかできないかも関係あるかな。いじめとかあるから。なくそうとしてもどうしてもある。(車椅子だから) ハンデあるといじめられる対象となる。
- 田中 : めっちゃ楽しい。中学・高校はまったく楽しくなかった。でも大学は専門的な教科を選べるので、楽しい。自分の好きな授業しかとっていないので楽しい。でも卒業必修とかはつまらないので抜けたりしてる。
- 栗原 : まちづくりにかかわっている大人の人たちからメッセージをいただいています、みましょう。



## ～大人からのメッセージビデオ～

メッセージを寄せてくれた大人は

近澤弘明さん、中川憲造さん、前田正子さん、小川巧記さん、山崎洋子さん、中田宏さん。

栗原： まちで過ごすのと家で過ごすのが好きか。

佐浦： まちというより横浜が好きかどうかまず聞きたい

三浦： 横浜が好きな人は青、きれいな人は赤

三浦： 全部青だ！横浜以外から来た人いますか？

三井： 僕は東京の南町田から来ました。横浜生まれ。こどものころの横浜よりももっとずっと変わって、住みやすそう。

佐浦： 僕は、横浜あまり好きじゃない。横浜都市再生推進委員会で活動していたんだけど、つい先月、田中屋という老舗の料理店のおかみさんが怒っていた。埋め立てでつくられたから、昔は海に囲まれて、船でくることができる店だったのに、今は町の中に埋もれてしまった。緑も多いというが、コンクリートの町。

三浦： わたしのまわりには緑がいっぱい。

佐浦： 横浜ってビルが多く、山下公園はいいけど、山下公園くらいしか逆にないじゃんと思う。

柳： たしかにそうだなと思う。小5の時引っ越してきて、横浜は埋められてできた町だし、コンクリートトの町だと思うが、人が集まるにはコンクリートにせざるをえなかった。でも緑もつくってきて、人がつくった横浜は好き。俺は人の活気があって、緑もがんばって増やしてきた、そんな横浜が好き。

三浦： まちは好き、まちは苦手な席替えを。

(席替えをしたらまちが苦手は佐浦、三井2人になってしまった。)

佐浦： わあ～さみしくなったなあ。(まちは苦手のエリア) バリアフリーだからいいけど、嫌いな(パネリスト) チーム少ない。

奈良： 東京都民。生まれはオランダ。奈良アレキサンダーよしきというミドルネームもある(笑)。東京から見ると、横浜は都市部としては活気ある街だなと思う。海辺の方くと、山下公園とか自然もあって、都市部と自然がまじりあっていてそういうところがいい。

木原： 私の住んでいるのは、北で東京に近い方。商店街はシャッター街になってちゃってる。自分の住んでいる方が昔が残っていてすき。

三浦： (頭を抱えてる金子くんをみて) 金子くん、大丈夫？金子くんの楽しいときっていつ？

金子： 今が楽しい。

三浦： え？いま楽しいんだ。よかった～～(頭を抱えていて、決して楽しそうには見えなかった)

三浦： かっていい大人ってビデオで出ていたが、金子くんにとってかっていい大人ってどんな人？

金子： 正義感が強い人。

- 栗原： 正義感が強いって？そういう人って（金子くんがいないっていった）警察じゃないの？違うの？
- 金子： 普通の人。（正義感が強くて普通の人という意味か？）
- 栗原： みんなに聞きたいけど、どんな大人になりたいか聞きたい。
- 三井： 今を楽しめる大人になれば。それがカッコいい。
- 佐浦： 子どもの心を忘れない大人がカッコいい。大人になると頭が固くなるから。できない、無理とか否定する。子どもは純粹。なんにでもチャレンジする。なんにでも挑戦できる大人がカッコいい。
- 田中： 確かに子どもの心を持っている大人はカッコいいと思う。大人としての常識やルールは持っているべきだけど、子どもの頃、こういうこともあったなと思えて、大人のものさしで測るのではなく、子どもの気持ちもわかる、そんな大人がいい。
- 中： それが大切。学校の先生にも子どもの気持ちがわからない人が多い。いろんな人が同じ街で生活していくこと上でもいろんな人の気持ちがわかることが大切だと思う。
- 佐浦： 大人に最近の子どもはだめだという人いたら聞いてみたい。
- 三浦： カッコいい大人だと思う人いますか？
- 岩室： 仕事も一生懸命やってるし、なんでもがんばってるから。
- 三浦： 何でもいいから一生懸命取り組んでいる大人がカッコいい。  
(金子くんがトイレに行きたいとあって、本番中にトイレにいった・・・)

- 三浦： 大人に言いたいことある人？
- 中： 「今の若者は」とつけるのをやめてほしい。ニートになるとか決めつけないでほしい。  
いまビデオを見てたら、一般的に大人は、こどもが夢がないとかいってるけど、今のビデオをみてたらみんな夢をもっていたじゃないですか。夢がないとかかかってに決めつけるのを止めて欲しいと思います。
- 佐浦： なんで最近の若者はいけないのか。大人に聞いてみたい。（会場の反応なし）。ここにきている人はみんなこどもが好きな人なのかな。だから最近の若者は、なんていわないのかな。

## テーマ2 自分のまちとライフスタイル

- 三浦： 私たちの未来は明るい暗いかで席替えを
- 栗原： 悲観的な意見が多いがなぜ？（暗い、というほうに移動した人が多かった）
- 柳： だって年金ない。自分たちが働くようになったらお年寄り4人分くらい背負う。自分たちの年金が返ってくるころには今の高齢者よりもらうの少ない。俺たちの未来はだから真っ暗だ。
- 三浦： 払わないで貯金しておけば。貯金すればいいじゃない？
- 金子： 貯金すべき。
- 田中： 金子くんの未来はなんで明るいのか。
- 金子： 普通に・・・無言。

- 三浦： 私はまんなかへん。(明るくも暗くも)。自分たちで未来を明るくしていこうとすれば変えられるのではないか。明るいものにしていこうという、そういう気持ちが必要。
- 栗原： どうすれば明るくできるのか。
- 中： 今の大人は頭がかたい。政治を見ているそうだが、やっぱりわたしたちが変えていくしかないと思う。
- 佐浦： 最近の大人はお金お金。それも大事だけど、そう言っていてはいい未来にはならない。
- 栗原： 次のテーマ。自分の過ごしている様子を見てきたい。
- 三浦： 三浦の一日。やきとりやが一番、カフェも落ち着く。やきとりやのおじさんがとってもやさしいし、話をしやすい。スタバがとっても落ち着く。ほっとできる。塾は楽しくはないけど、自分のためにいくかという感じ。ベットでごろごろしながらぬいぐるみに話しかける時間も好き。
- 栗原： お弁当、部活、自分の部屋の写真がでてますが、お弁当はいつも自分でつくってます。
- 三浦： すごい!このお弁当のテーマはなんですか？
- 栗原： この日はちょっとねぼうしてしまったので、手抜きではあるんですが・・・台所が結構好き。(手抜きには見えない・・・)。  
部活が放送部。だからみんなで最新の曲とか聴いて編集する時間が楽しい。
- 奈良： 日曜のスケジュール。祭日も日曜も時間があれば剣道に行く。道場は好きな場所。サーティーワンはアイスが好きで、通いつめて金欠になった。今は月に1回くらいしかいけない。すべてのアイスを食べつくした。おすすめはクッキー&クリーム。
- 中： 学校のベランダからの景色が好き。開放的で好き。みなとみらい、ランドマークなどが見える。ここでお昼をします。スペイン語のクラスが好き。受験と関係なくリラックスできるクラスなので好き。ここでスペイン語披露。(スペイン語で挨拶)
- 三浦： 木原さんは1日を書き出したら、勉強してばかりいたことに気づいたんだって？



- 木原： そうなんです。私は、朝起きて、学校で勉強し、帰ったら塾のために勉強し、塾でも勉強、そのあとまた、

帰ってから勉強してる、ということに気づいた。自分でもびっくりした。

田中： ベッドが一番好き。椎名林檎が好きでいろいろベットに張ってある。椎名林檎のすごろくをもらったのでそれも張っている。大学の中庭、とにかく広い。晴れた日は陽がさして、四つ葉のクローバーをさがしたり。空いている時間、ファミレス。サイゼリアは安くて学生の見方。

三井： 日の大半は自分の部屋で過ごす。漫画 200 冊以上ある。部屋のテレビでゲームをやったりする。自分は電気製品やゲームがすきなので、ヤマダ電気落ち着く。

金子： 部屋でパソコン。(照れてなかなか話さない)。友達とパソコンでメールをしている。

三浦： (会場) 家と外どっちが好き？ 外が好きな人が多い。どこ？

会場： 公園

奈良： だんぜん外。サーティワン、アイスクリーム屋があるし、リラックスできるのは外。アイスを作る機械で自分でつくってもおいしくない。

三浦： 将来サーティワンに就職したら？

三浦： 家族や友達と過ごす時間と自分で過ごす時間どっちが好きか。家族や友だちが多い。

田中： 一人暮らしなので、家に帰るとさびしい。家に帰っても誰も迎えてくれない。だから、友達という方がすき。友達といられる限界まで、いる。

柳： 友達というのが好き。

木原： 家に帰ってもひとりが多い。(親がいないことが多い)。親がいるとめんどくさいことが多い。やることがあつてやってるのに、お風呂に入れとか。

佐浦： 親は言うのが仕事だからしょうがない。確かにうざい。

木原： やってるのにいわれる。やってからみてからいってほしい。

佐浦： 自分はいつも言われても勉強しないから、勉強しなさいって言われなくなった。

三浦： こんな街にすみたいってある？ どんなイベントなら参加したいか。

中： 若い人向けのイベント、音楽とかとか参加しやすいもの、固いものが多い。環境とか平和とか。そういうものよりもっと参加しやすいものがある。

三井： ゲームのイベントが好き。幕張メッセでゲームの祭典がある。夏のお祭りにはいく。人がいっぱいの中をぶらぶら人するのが好き。

## 第2部

## ミニヨコ最高！歌とダンス



## &lt; ミニヨコ紹介 &gt;



三浦 & 石野：ミニヨコの紹介、トーク

こんにちは～ミニヨコの紹介は、

石野： ミニヨコ市民の代表となって街の色々な仕組みを決める TMC メンバーで最年少の小学4年生の石野晶子と、

三浦： おなじみのお顔ミニヨコハマシティ市長の三浦絢佳が楽しく紹介していきたいと思います。

簡単にミニヨコハマシティとは、19才以下の子供達で作る、大人口出し禁止！

子供だけの街だよ！晶子ちゃん、

石野： うん！ミニヨコでは、市民1人1人が、やりたいしよくぎょうやお店を考え、まち作りのかんせいに向けて、市民みんなががんばって、えがおあふれる楽しい街をつくってます！

三浦： 晶子ちゃんは、今年のミニヨコではどんな事をやったのかおしえて？

石野： 大人のレストハウス！（一言：たくさん大人がきていそがしかった！）←とか？

三浦： お仕事が忙しかったみたいだけど、今年のミニヨコで楽しかった事って何かあるかな？

石野： 友達ときょうりよくしてお店をやっていたときに、一番楽しかった！

三浦： 私も、お店をやっているときに楽しかった～！（ちなみに今日ホール外でオープンしています、ストロベリーカフェです、ぜひ帰りに寄って行って下さい！笑）

晶子ちゃんはミニヨコ活動をしていて、自分自身がかわったことってあるかな？

石野： 友達がふえた、お金の大切さが分かった、他人の事を考えてこうどうできるようになった。

三浦： 小学生でここまで学んでるとは、市長・・・関心です！

私は、市民みんなが成長していくにつれて、自分も「しっかりしなきゃなあー」って思うようになった！

三浦： ミニヨコをやっていて良かったことってある？

石野： 2年れんぞく市長せんきょに、りっこうほしていたので、文を考えるのがうまくなりました！

三浦： そういえば！晶子ちゃんの選挙演説は凄く分かりやすくして私は象的だったな～

急だけど、今三月の時の演説出来たりする？

石野： 演説する・・・

三浦： ありがとうございます！小学三年生とは思えないくらい、凄いですよね～！

三浦： それでは最後に一つ、将来ミニヨコはどういう街になると良いとかな？

石野： 広いまち！ほかには、おもしろいお店がいっぱいあるまち！とか・・・市長せんきょをケータイとうひょうにしたい！

三浦： おおっ！市長選ケータイ投票か～！すごいなあ、いつかは絶対やろうね！

それでは、ミニヨコハマシティ紹介？というか、トークになってしまいました・・・

終わります。ありがとうございましたー！

石野： ありがとうございましたー！

いい町にするため、リサイクル、袋使わない。一人一人の友達増えてほしい。

三浦： 石野さんは泉区から都筑区に来てくれています。

## < ミニさくら紹介 >



三浦： ミニさくらの佳奈ちゃん

山本香菜：千葉の佐倉から来ました。かなちゃんと呼んでください。ミニさくらは18歳以下なら誰でも市民になれる、あそびのまちです。

砂山佳奈：ちびかなです。ミニさくらでは銀行とステージをやった。ステージでは、ミスコンテストの司会をしました。自分が美人だって思っている人が出る。

三浦： ミニさくらには、結婚式と養子縁組があるとか？

- 山本： 婚姻届にサインすると、市民の目にさらされ、お祝い金がもらえます。養子縁組は子どもも自分の子どもにしたい人を養子にする。
- 三浦： お祝い金目当てで結婚する人は？
- 山本： お祝い金を出したら結婚する人がふえた。
- 三浦： ミニさくらはどんなまちになっていくといいですか？
- 砂山： 大人が口出ししないまちにしたい、楽しくしたい。
- 三浦： 山本さんは市長夫人。市長が好き？
- 山本： 市長になった人と結婚してから、その人は市長になったので、政略結婚ではない。
- 三浦： ミニヨコとの違いある。一言ずつどうぞ。
- 砂山： せまいけど、いろんな人がきて楽しい。
- 山本： 商店街でちいさい場所だが、こどもたちの遊びに対する爆発的なパワーを感じに、遊びに来てください。ミニさくらの友達男の子A：治安がいいまちにしたい。強盗事件があったり。
- ミニさくらの友達男の子B：治安がいいまち。
- 山本： そんなに治安わるくないよ～。一部の強盗は、警察がちゃんとしないからだめだ。
- 男の子A：裁判所、秘密警察をつくりたい。
- 三浦： 以上ミニさくらのみなさんでした。

## < ミニいちかわ紹介 >



- 三浦： 続いてミニいちかわのみなさん
- のぞうまん：市川市内の2つの公園で実施します。
- 三浦： 去年のミニいちかわではどういうことをしましたか？
- のぞうまん：ミニいちかわは5回目。去年は、5,000人くらい来た。その前は4,000人。チラシを学校で配布している。全クラスに配布してもらっている。学校も一丸となってやってくれる。コンビニもチラシを貼ってくれてる。地域の人も一丸となってPRしている。
- 三浦： 今日、横浜来ての感想は？
- のぞうまん：海が近くてよかった。横浜は空気きれいで気持ちいいな。たねまるキャラクターかわいい。
- 三浦： ミニいちかわキャラいる？

のぞうまん：によつき（木とか）とかいる。あのキャラクターとがっててこわいということをする子もいた。うさぎもいたし、お魚のキャラもいた。毎年変わる。

三浦： 治安はどう？

のぞうまん：治安は・・・うちには、「わるわるだん」がいる。銀行をあらしたりする。職安に「わるわるだん」とあって、職業として人気あったんです。

三浦： 今年は何やるの？

のぞうまん：11月1日、2日駅前、8、9日防災公園？で実施します。市川駅が近い。

三浦： ミニいちかわ、かわっているところは？

のぞうまん：わるわるだん。

山本： うちも銀行強盗という職業が出回ったことがある。あわてて銀行強盗の求人を回収した。

三浦： ミニヨコは平和だなって思った。ミニいちかわやさくらがリアリティがあると感じた。

山本： 市長がまず、筆頭にたつて悪くなったらどうですか？

三浦： どういうこと？

山本： まず市長がイスにふんぞり返って、「お前金もってこい！」とかいったら？

三浦： ああ、まず自分が治安が悪くなるようなことをはじめ、ってこと？・・・  
決してやりません！（笑）

のぞうまん：ミニいちかわは、少々治安は悪いけど、楽しくお金をかせいで、そのお金で買ったり飲んだり食ったりできる。地域の人にも人気。ぜひ11月には市川に足を運んでください。

### < 伊丹とのスカイプ中継 >



三浦： 伊丹のU-19とスカイプ中継がつながっています。商店街と一緒に街づくりをしている高校生とつながっています。今年のミニヨコに来て、たこやき屋をやってくださいました。たこせん、人気あったんです。

伊丹： こんにちは

三浦： シンポジウムの感想はありますか？

伊丹： 狭い部屋で待機してたので、テンションについていけるか心配。



- 三浦： 伊丹に質問してみます。
- 三浦： 自己紹介をお願いします（3人が自己紹介）  
今日はその3人でやってくれるのですか？  
質問します。商店街の活動をとおして、まちにかかわったことで自分が変わったことはあるか？
- みゆき： 商店街活性化にかかわり、伊丹を明るい街にしたい気持ちを持てたりした。
- 下村： 商店街の人たちは年上。ほかの世代を人を見る目が変わった。年上でも心が若い人が多いと感じた。
- 三浦： 自分たちが企画をするのは何が楽しくて、大変か？
- 成田： いままでは大人たちが用意した企画だったけど、自分たちで好きなように変えていけるのがたのしい。
- 三浦： ミニヨコに参加した感想は？
- みゆき： ミニヨコに参加して、こどもが働いてお金をもらうイベントが宝塚にあると聞き、興味があった。ミニヨコでとても楽しかった。伊丹でも似たような同じようなイベントをしたい。
- 成田： 小学生たくさんいたんだけど、意志をもって行動したり、ハプニングがあっても自分たちで対処しているところがすごいと思った。自分の責任で行動できるのがすごい。ふつうは大人が口出しするもの。自分の好きなことを自分の責任でしているのがすごい。
- 三浦： 1部見ましたか？
- 三人： 三人とも見ていない。
- 三浦： わが町自慢をお願いします。
- 下村： レスキュー協会で、災害救助犬を育成しているセンターが伊丹にある。日本では伊丹だけ。中国の大地震には行けなかったが、日本で起きた災害ではこの犬が活躍している。伊丹でもこのセンターを知っている人が少ないので、どう広めようかと考えている。
- 下村： 昆野池公園、あひるなども生息しているが、問題になっている鳥も多く生息している。
- みゆき： いたまち新聞大号は1年生向けに3年生が作ったもの。商店街活性化プロジェクトを知ってもらうために作った。情報って授業は何をしているのか。パソコンだけではないということを知ってほしい。商店街の年間やるイベントなどを載せた。
- 三浦： わたしの学校は情報の授業はパソコン打っているだけ。会場も同じでした。情報科の授業って楽しい授業なんだなと感じた。
- みゆき： 家の前の写真。一番好きな場所。田舎に住んでいて、写真の奥、いちようが見えますか？このいちようがお気に入り。いったん枯れる薬を打たれたが、また元気になった。店主との意見交換でつらいこともあるが、いちようの木を見るとがんばろうという気持ちになる。
- 三浦： 大人の悩み相談をやるので、伊丹の人も答えてほしい。

## <おとなの悩みそうだしつ>



### ☆質問

- 栗原： 夜なかなか眠れない、おきられないといった睡眠の相談きている
- 田中： まず寝れないのは、1時間前にお湯につかること、アロマオイルをかぐ、起きられないのは、浅い睡眠、深い睡眠が90分ごとに交互にくるので、浅い睡眠のときに目覚ましをかけるとよい。
- 奈良： 基本的に、朝起きられないのは、睡眠に問題があると思う。寝る前、寝ることしか意識しない、心の落ち着きが必要。これやってないとか考えると眠れない。割り切って眠る。
- 柳： 明日あれしなきゃと考えると眠れない。音楽を聴いて寝る。クラシックみたいなのを聴くと眠りやすい。田中さんの意見に賛成。睡眠時間を3の倍数で考えている。
- 中： とにかくリラックスして寝ることが大切。クラシックとか聴いて寝るのがいい。
- 木原： お風呂に入って、ホットミルク、ココアを飲んで心を落ち着かせると眠れる。深く眠れるので起きやすい。

### ☆次の質問

- 栗原： 一緒に旅行に行ってくれないのでどうすればいいのか。
- 佐浦： これはむずかしい。ぼくの場合は、なんかかってあげるとか、食べさせてあげると言われたらついていく。何かでつるのが一番いい。好きなものを探してあげて、運動が好きな子なら、テニスしようよというように誘うといい。
- 三井： 子どもにとってはおもしろくないとか、テーマパークならついていくのではと思う。
- 金子： …
- 会場： 金子くんは一緒にいかないの？
- 金子： つまらないから行かない。
- 栗原： 身近なところからはじめればいい。

### ☆次の質問

- 栗原： 人間関係がうまくいきません。
- 三浦： どうすればいいでしょう？

- みゆき： とりあえず、笑顔であいさつかなと思います。
- 成田： このあいだ、散髪したとき、その店の人と握手をするきまりのある店で、握手した。そういうものいいかも。
- 木原： とりあえず、会ったら挨拶。目をあわせて、聞き上手になる。自分のことを話すのでなく、聞き役にまわると、相手は聞いてくれるんだなと思ってくれる。
- 三浦： 自分が一歩ひくなど、がまんもあるとよいと思います。
- 三浦： 最後に会場の人に一言ずつどうぞ。
- 佐浦： 今回、急ぎよ頼まれたが、やってみていろんな意見きけて、自分の意見持っていて勉強になった。自分でもこういうイベント企画して若い子の意見を聴く場を作っていきたい。
- 中： 自分のためになった。学校とかではこういう場がなかなかないので楽しかった
- 柳： いろいろ意見聞いてくれてありがとう。自分はまだ夢とかないが、みんな夢持っていてすごいなと思った。いろいろ話を聞いていて、自分や視野がせまいとおもった。その先の将来まで見ることができてない。もっと経験をつんで、視野を広げて、将来を考えたい。
- 三井： めったに人前に出ないが、企画させてもらい、人の意見聞いて、自分の考えがかわったり、参考になった。
- 奈良： 今回三浦市長に誘われて参加した。今まで地域や学校でしか物事見ていなかった。こういう場でいろんな世界を見ている人と接して勉強になった。
- 金子： 今日のはじめて参加したが、参考になった。
- 木原： いつも学校とか地域とかではこういうことない。1～3年で1000人もいるのに、知らない人もいて、交流の場ない。シンポとかはじめて見た人の意見を聞けて、将来のためにもよかった。いい経験になった。
- 田中： 今回自分がいちばん年上。他のみんなは年下なのに、意見を持っていたり、すごいと思った。大学では同年代の子としか交流がない。参加してためになったし、楽しかった。
- 栗原： ミニヨコ取材でおじゃまして、今回市長に誘われた。いろんな考え持っていて、吸収できた。
- 三浦： 今日は司会がなれなくて、うまくことがすすまなくて、すまない気持ちでいっぱいです。自分のことでは、やりたいことたくさんあって、3チャンネルのお姉さんになりたい。スチュワーデスもいい。でも英語嫌いだから無理かも。弁護士になりたいという時期もあった。金子くん、もうかるかな。アナウンサーもいい。今は夢しぼれない状態です。今日は楽しかったです。
- 三浦： 伊丹のみなさん参加して一言ずつお願いします。
- 下村： 途中からということだったが、ごたごたしてすみませんでした。みなさん年はちがうけど考えていることは聞いたりすることないので、こう思ってるんだと聞けてよかった。
- 成田： 伊丹と横浜離れてるのに、一緒に会話できるのは楽しいな。場所が違うと考えていることも違うので楽しかった。

みゆき： 今回も横浜とシンポできて感想聞いて、自分の考えを持っている人多いし、シンポで伝えることができ  
てすごい。まちづくりをしていくことで成長にもつながるので、意見を持ったり、伝えたりすること  
をしていきたい。

最後に全員ステージへ・・・

岩崎学園（ヘアメイク・スタイリスト）9人。

ミニヨコダンスチーム、ストロベリィカフェ、

ミニいちかわ、ミニさくら、ミニヨコ

パネリストのみんなを紹介。



## 最後にあいさつ

三浦： 私たちはミニヨコ市民の代表として、8月13日からドイツベルリンで開かれる「こどものまち世界会議」  
に招待されています。ミニヨコハマシティでみんなと楽しみながら、遊びながら、まちについて考え、  
まちづくりをする中で、このミニシティの活動をもっと多くのこどもたちへ伝えたい、と思うようにな  
りました。来年は横浜は150周年を迎えるそうですね。私たちU19もこれから、まちがもっとすてき  
になっていくことをみんなで考えるイベントをしながら、横浜の未来を考えていきたい、つくってい  
たいと思います。そのために来年150周年の記念すべき年に、「ミニヨコハマシティの全市版」をしてみ  
たい!! みんな、やりたいよね~~~~

そしてそのときに第2回「こどものまち世界会議」を横浜で開き、世界中のこどもたちと、みらいのま  
ちについて語り合いたいです。世界中のこどもたちを横浜によびたいよね~~

私はそのためにミニヨコハマ市長として、U19実行委員会をつくりたいと考えました。今日からU19実  
行委員会のメンバーをこの場を借りて募集します。今日から来年できる日まで募集します。これからも  
ミニヨコをよろしく願います!今日はありがとうございました!!

U-19 シンポジウムのスライドショー

## いざ、ドイツへ！ミニミュンヘンとベルリンを訪問（2008年）

「こどものまちの元祖である、ドイツのミニミュンヘンにいて、ミニヨコを紹介したい。ミニヨコのお店をやりたい」と、初代三浦市長が、市長に当選し、所信表明演説でそう話した。そのときはニコニコと聞いていて、まさか本当に実現するとは思っていなかった。私たちはミニミュンヘンに行き、ベルリンで行われたこどものまち世界会議に出席し、次年度横浜へ、こどものまち世界会議を誘致するという、とんでもないことを企てるため、ドイツに行った。



ドイツで2年おきに行われる、ミニミュンヘン。日本で生まれたこどものまちは、多かれ少なかれこのミニミュンヘンの影響を受けているといっているでしょう。私たちのミニヨコも、ミニミュンヘンの話しを聞き、ビデオや写真を見て、参考にさせてもらっていました。この頃、全国で同じようにこどものまちを開催している人たちのネットワークがだんだんできていて、そのネットワークに所属している人たちが、ツアーを組んで、ミニミュンヘンに行こうと話が盛り上がっていました。2008年は、さらにベルリンで、第一回こどものまち世界会議を行うのです。ミニヨコを開催してわずか2年目という私たちでしたが、三浦市長の公約を果たそう、ということもあり、ドイツに行くことを決めました。

さらに、このとき、横浜は開港150周年という節目を迎える翌年の2009年、開国博を行うことになっていて、とても盛り上がりを見せていました。誰がいだしたのか？をはっきり覚えていないのですが、この開国博に、こどものまちを開催しよう、そしてせっかくなら、第二回世界会議を横浜に誘致したらいいんじゃない？ってことになったのです。そうだ！ベルリンの会議に出て、正式に横浜開催を宣言しよう！ということになりました。「そうし

たい」と「やれる」は、ずいぶん違うのですが、この頃、ミニヨコの勢いは止められませんでした。あらゆる手を尽くし、2009年の開国博での開催に向けて、準備しました。場所の確保、横浜市の共催調整、協賛金、協力企業を集めること、助成金の申請、などなど。

私たちはこのイベントを、とりあえず中身はなんでもできるようなイベント名「こどものまち EXPO ～minicityEXPO」と名づけて、いざ、世界会議横浜誘致ということで、ドイツに旅立ちました。

ミニヨコ市民は、高校生2名、中学生1名、小学生3名が参加。大人は理事長で当時横浜国大の准教授の三輪さん、副理事長の私（岩室）、横浜市職員の杉山さんの3名でした。とはいってもツアーのため、全国のこどものまちの人たちが他にも20名くらい一緒でした。他のまちは、ほぼ大人だけでこどもの参加は少なく、ミニヨコ以外では、千葉から来ている小学生の男の子と赤ちゃんだけでした。



ドイツに着き、さっそく最大の目的、ミニミュンヘンに入場しました。着いてみると、会場内に「日本館」なるものが用意されて、びっくり。和風のこじんまりした建物で、中は畳6条ほど、本物の畳の部屋です。ミニヨコのこどもたちは、ここで茶道の腕前？を披露しました。そのほか、折り紙で手裏剣や鶴を折って売ったりして、ミミュというお金を稼ぎ、楽しくすごしました。ミニヨコのこどもたちは、ミニミュンヘンのテレビに出たり、イベントホールで、ミニヨコとミニミュンヘンの姉妹都市になるセレモニーに参加したりしました。ここではミニヨコ紹介コーナーを設けてもらい、こどもたちが練習してきた英語でミニヨコの紹介を行い、そのあとミニヨコの曲を一部ドイツ語に歌詞を変えて歌いました。こどもたちはとっても堂々としていて、かっこよかったです。悲惨なのは大人で、こどもパラダイスのまちに大人が食事にありつける場所はなく、こどもたちに稼いだお金でピザを買ってもらい、こっそり？と食べたりしました。



2～3日間のミニヨコとは違い、ミニミュンヘンは1ヵ月近く開催されます。だから建物も充実して、作りこんでいます。長期間のため、バックヤードがしっかりしていて、これは次のミニヨコのまちに大きく生かされました。他にも違う点は、外の土地に木造の家を立てているこどもたちがいたということです。いままでどちらかというともちのしくみや機能、お店の中身などのソフトウェアのことばかり考えてきたミニヨコに、ミニミュンヘンのデザインされた街並みや自分たちで建物を建設していることは、大きな影響を与えました。



ミニミュンヘンのあと、今度はベルリンに行き、こどものまち世界会議に参加しました。会議にはこどものまちの主催者が主にヨーロッパ、日本から一同に集まっていました。そしてそれぞれが、自分の開催するこどものまちの成果について報告し、こどものまちの意義や効果について話し合うものでした。ここでもこどもたちは英語でスピーチし、ミニヨコの曲を歌と踊りで披露しました。メイドの扮装で登場した三浦市長に、ドイツのこどもたちから「クール（かっこいい）！」と連発されました。終了後、バーベキューパーティが開かれ、ミニヨコのこどもたちが、ドイツのこどもたちに、ミニヨコの写真を見せると、やはりメイドカフェをやっているようすに「クール」と連発。日本のコスプレは、ドイツのこどもたちにも有名なものでした。





私たちは、ベルリンの会議で、こどものまち世界会議を無事誘致することができ、翌年横浜で開催することを宣言するところまで行い、日本に戻りました。そしてこどものまち EXPO 開催という大きなイベントが行われる、2009 年の開国博を迎えました。

ミニミュンヘン写真スライドショー

## こどものまち EXPO (2009年)

2009年、まちにまつた「こどものまち EXPO」が開催された。8月7日～9日という夏休みのゴールデンタイムに、横浜港の大さん橋埠頭の大ホール（大さん橋ホール）で3日間、8月8日9日の2日間、横浜市の関内にある、開港記念会館を全部借り切って、第2回こどものまち世界会議を行なった。



1年も前から「こどものまち EXPO」の準備をずっとしてきたつもりでした。実行委員会を立ち上げ、協力してもらう団体、企業、行政などの調整からはじまり、ミニヨコ市民と今度のまちは、どんなまちにするか、なにをするかを話し合い、大人は大人で世界会議のメインテーマはなににするのか？などの企画の基本からのスタートでした。

大さん橋ホールでのミニヨコは、いつもの4倍くらいのスペースがありました。まちの中にはベロタクシーという交通が走り、おばけ屋敷や射的、ネイルやさんや、横浜らしいシウマイ、中華まんじゅうのお店、あるいは日本らしいあんみつなどのお店などが立ち並びました。さらに今回は、ミニヨコの中に全国のこどものまちに呼びかけてお店を開く、大使館ゾーンを設けました。大阪、兵庫、名古屋、立川、千葉などのこどものまちがそれぞれの通貨を使い、出店してもらい、大使館ゾーンには、交換レートを表示した両替所ができました。大使館では、みんな競ってユニークなお店を開いてくれました。自分たちでつくった映画を披露する映画館。待ち時間にギャグがきける大阪からのたこやきやさん。千葉からは名産ピーナツを紹介する、ピーナツクリームをはさんだパンのお店などなど。



全国のこどものまちから来てくれたこどもたちや大人スタッフには、宿泊場所として、青少年施設の宿泊を用意し、ドイツからのお客さんを含め、90人余りが宿泊しました。

ミニヨコはいつも「おもてなしの心」を大事にしています。泊まるところの手配、歓迎パーティの開催、食事の心配など、心を尽くしたつもりです。宿泊施設には、レストランがないため、ミニヨコ市民の保護者で、給食の調理員をしている方をお願いして、日本の給食のメニューをドイツの人にも味わってもらいました。この食事はとても喜ばれました。

ミニヨコと同時開催で、開港記念会館で開かれたこどものまち世界会議は、3つのパートにわかれ、「こどもの社会参画を行政としてどのように進めていけるか?」「全国こどものまちな紹介をゲーム形式で競い合い、こども審査員が審査する、シビックプライドマッチ」「こどものまちにおける独自の大人マニュアルの紹介と分析」についてと、中身の濃いものになりました。(報告書 PDF)

そう。ず〜っと1年前から準備してきたつもりでした。でも、結局ぎりぎりになると、ドタバタになり、毎日事務所で深夜まで準備しました。次の日が世界会議初日という夜、全国のまちなプラカードを事務所で杉山さんと

つくっていたら、連日の徹夜に近い作業でフラフラになっていた杉山さんがたったまま寝てしまい、机にものすごい音をたてて頭をぶつけてしまいました。それでもそのあと深夜2時くらいまで作業を続けました。事務所のあるハウスクエア横浜のトイレはその時間になると、まったく真っ暗で、懐中電灯が必要でした。つまり誰ももうこのビルにはいない、丑三つ時まで、作業していました。私は荷物があるため毎日、大さん橋まで車で通ったのですが、眠ってはいけない、とブラックブラックというガムをだいたい1ドライブで10個はかみ続けました。そんな壮絶な日々でした。

だから、ゆるして、とってゆるされないような失敗がいくつもありました。まず、私はFMにライブ出演して欲しいと言われていて、昼の12時半ごろ電話でインタビューに答えることになっていました。ところが昼の12時は、入場客がピークになるころで、あまりにやるが多かったことに加えて、会場でのトラブルの対処にも追われ、その時間に電話に出ることができませんでした。というか気がついたときには30回くらい着信が入っていて、番組の時間は終了していました。私は悲しくて裏で号泣しました。

他にも私はとある老舗のお菓子屋さんに協賛をもらい、こどもたちのお店のお菓子を手配することになっていました。その会社の社長さんからは、搬入先と個数、時間を教えておいてくれれば手配します、と言われていました。それなのに、それなのに私はその連絡をするのを忘れてしまったのです。それに気がついたのは、もうお店がはじまったあとのことでした。本当にごめんなさい。

会場のどたばたの中、イベントの趣旨を理解しない保護者からの、当日の苦情が重なり、受け付けをしていたスタッフが、本当に困って私に相談してきました。ミニヨコでは、市長選やU-19シンポジウムなど全員に参加して欲しいプログラムを行うときには、まちの機能を全部止めて、U-19シンポジウムに全員参加させていました。そのときちょうど入場したこどもの保護者が「自分のこどもが入ったばかりなのに、お店がやっけてなくて働けない。お金を払って参加しているのに、いったいどういうことなのか。」というような苦情が起きていました。私はそのとき極度の疲労が重なっていたのもあり、その場の短絡的な判断をしてしまい、こどもたちにあまり理由も説明せず、いったん、U-19シンポジウムの途中で、中断するように指示してしまったのです。こどもたちなりに企画した全国のこどもたちがテーマをもって語り合う、シンポジウムは大人の私の勝手な判断により、中断してしまったのです。よく考えれば、そんなモンスターな保護者の言うことを全面的に聞くなんてありえない。その間大人スタッフが、こどもがいないお店を切り盛りするなど、考えることはいくらでもできたはずですが、保守的になってしまった瞬間でした。私は終了後、主体的に運営していた、高校生スタッフのこどもたちに、何でも謝りました。大人口出し禁止のまちで、私はせっかく盛り上がっていたシンポジウムを中断させてしまったから。みんな優しいからいいよっていつてくれたけど、悲しくて、自分のやったことが悔しくて、さらに私は泣きました。

つぎの日、かなちゃんという千葉の高校生は、めげずに今度は全員をあつめるのではなく、まちのこどもたちにマイクを使いながらみんなに聞こえるようにインタビューして回る「U-19シンポジウム」というユニークな企画を行いました。それは、まちの機能を止めずにできる、すばらしいアイデアで、私は感動しました。

ミニヨコで使うすべての物品の購入やレンタルはスタッフの中さん、川井さんに任せきりでした。食材、まちの

材料となるダンボールやペンキ、雑貨、料理器具などのレンタル品など、もともと資金がないため、出来る限り安い値段のものを探し、本当にしっかりとやってくれました。朝はスーパーの開店と同時にあらかじめ予約していたものを受け取り、大さん橋に来て、イベント運営のスタッフをやったあと、夜遅くまで足りないものがないかをチェックして・・・の繰り返し。裏方として、大変だったと思います。

会場設営は、基本的に建築家の遠藤幹子さんの空間デザインのもと、関東学院大学の中津研究室の学生のみなさんに多大なマンパワーを発揮してもらいました。また、会場準備は8月5日から毎日、BankART1929の協力により、BankART Studio NYKで制作され、ほぼ毎日港まで通うことになりました。たくさんの思い出とともに、多くの人たちに支えられ、設営準備から会場撤収まで一週間で費やした怒涛の「こどものまち EXPO」は終了しました。

## こどもたちのミニエピソード

### 「仕事のない、警察と病院」

まったく暇な警察署と病院がとなり合せになっていた。事件は起きないし、病人が来ないから、まったく両者が暇だったので、しばらくはどうしようといっていたが、そのうち警察はパトロールに出かけ、病院のバイトの子たちが自分の仕事をつくるために健康な人を捕まえてきて病人にしようとしたので、困った。しかし、豪快なバイト人たち！

### 「ダースベーターがユースト中継」

MHKを担当していた、しんやくん。なぜかずっとダースベーターになりきり、放送局を行なった。パソコンのついたカメラを持って、会場内をぐるぐるまわり、リアルタイムでレポートしていた。ミニヨコに行けなかった子が自宅でダースベーターの放送を見て「ダースベーターの放送を自宅でみていた。本当にミニヨコ会場にいるみたいな感覚の放送だった。」と感想を述べている。ダースベーターが人ごみの中にノートパソコンをもってうろうろしているようすは、とてもシュールだった。

### 「お化けやしきに関するエピソード」

お化け屋敷でオバケのバイトをした。ベッドの上に横たわっていて、脅かすのが仕事だったが、お客に踏まれて・・・でも重さに耐えてがんばった。

- ・自分のお店がお休みになったので、お化けやしきに入ってみると、入り口で空気砲が飛んできて怖かった。
- ・お化け屋敷は真っ暗で怖かった。何ども通って楽しかった。

### 「白熱した選挙戦」

選挙戦は6名が立候補。白熱した選挙戦を繰り広げた。千葉から来た男子が、なぜかミニヨコの選挙に立候補し、アウェイだから当選しないだろうとみんな思っていた（らしい）ら、会場のベロタクシーにのって「〇〇をよろしくおねがいします！」と大人の選挙カーのように名前を連呼して回っていたら、副市長に当選したので、横浜の女子たちは大反発。千葉のまちにミニヨコが乗っ取られる！と泣き出す子もいるしまつ。しかし選挙の結果は結果。

その後、はるばる千葉からこども会議のために、「隊長」と呼ばれるようになった彼はやってきた。えらい！！

大さん橋ホール

第二回こどものまち世界会議～開港記念会館

## 横浜市歌 Hip-Hop Version を創る！（2009年）

2009年、横浜は開国博で盛り上がりを見せている、とはいっても、なんとなく市民レベルのお祭りムードはいまいちだった。そんな中、ひとつのアイデアとして、100年前に作られた横浜市の市歌をみんなで歌う、というプロジェクトが、各所で行われていた。ブルースにしたり、ボサノバにしたり、ジャズ、吹奏楽などさまざまなアレンジがあった。じゃあ、ミニヨコでもなにかやりたいということになり、Hip-Hop にアレンジするか・・・という話しになり、みんなでワークショップをしながら作り、振り付けし、最終的にベイサイドのステージ、ヒルサイドのステージで披露した。



誰が思いついたのかな。横浜市の小学校ではなにか式があると、歌う「横浜市歌」。いわゆる校歌みたいにピアノ伴奏で歌うものなんだけど、それをポップにアレンジしちゃったらどうだろうって。それでまず私が基本アレンジし、途中にラップなどのセリフをいれられるところなどを作り、子どもたちに歌詞を考えてもらい、編曲家の仕事をしている私の自宅のホームスタジオでレコーディングしました。レコーディング希望者を募ったら、20人位来て、玄関が小さな靴でいっぱいになりました。まず簡単に声のバランスを見てから2～3人のチームにわけ、パートパートを交代で歌ってもらって、編集をして完成させました。なかなかいい出来ばえになったと思います。子どもたちにとっては、「ミニヨコ最高！」というミニヨコのテーマ曲をレコーディングしてから、さらに2回目のレコーディング体験となりました。

その後、ダンスの専門家と子どもたちと一緒に振り付けを考えるワークショップを行いました。みんなで踊れるところと、相当練習しなければならない「魅せるダンス」の部分がありました。難しい部分はyou-tube にアッ

プして、各自自宅で練習する、という今風の方法をとりました。これらのダンスと歌は、横浜開国博のステージ、ヒルサイドとベイサイドの両方で披露されました。

[ヒルサイドステージ](#)



## ミニヨコハマシティ in ハウスクエア横浜！（2010年）

2010年、ミニヨコでは「大人のおこさまランチ」作りにチャレンジすることになりました。ただ普通の料理を作るのは面白くないので、チョコケーキに見えるおこのみやき、プリンに見える茶碗蒸しなどといった「デザートに見えるランチ」をコンセプトに作ることにしました。実際にプロの料理家の方を呼んで研究し、試作して、実際に食べてみないと分からないぐらいのデザート風ランチを作ることに成功しました！その後住宅展示場のすてきなモデルハウスで実際に大人のお客さんに食べてもらいました。とても好評で面白い体験でした。



お好み焼きとやきそばでできた、チョコレートケーキ？！

[ミニヨコハマシティ in ハウスクエア横浜 2010年の写真集](#)

## 千葉から参加し立候補した副市長！（2009年～2010年）

千葉から参加し、立候補した副市長が際立って印象的でした。ミニヨコにはないキャラで、多くのミニヨコ市民に多くの影響とインパクトを与えました。彼は遠路はるばる千葉から、こども会議にも参加していました。自分がミニヨコのまちでやりたいことは、最初は「科学の教室」だったのに、まちを守る警察をやる人がいないと知り、警察を担当しました。彼の警察でのビシッとした行動や国旗を掲げている様子は市民にその存在を大きく知らしめました。国旗を降ろすシーンは彼の徹底したその職に対するプライドやこだわりが特に表れたものだったといえます。ですが、このとき初日に日本国旗を上げ下げしてするので、それをいやがったミニヨコ市民から「ここは日本国ではないので、日の丸を上げるのはおかしい。ミニヨコ国なんだから。」と指摘され、次の日、別の旗に変わっていました。これがどのような経緯で作られたのかは定かでないけど、ミニヨコ国の旗があがった警察署で、彼は小さなアルバイト警官たちの面倒をりっぱに見ていました。



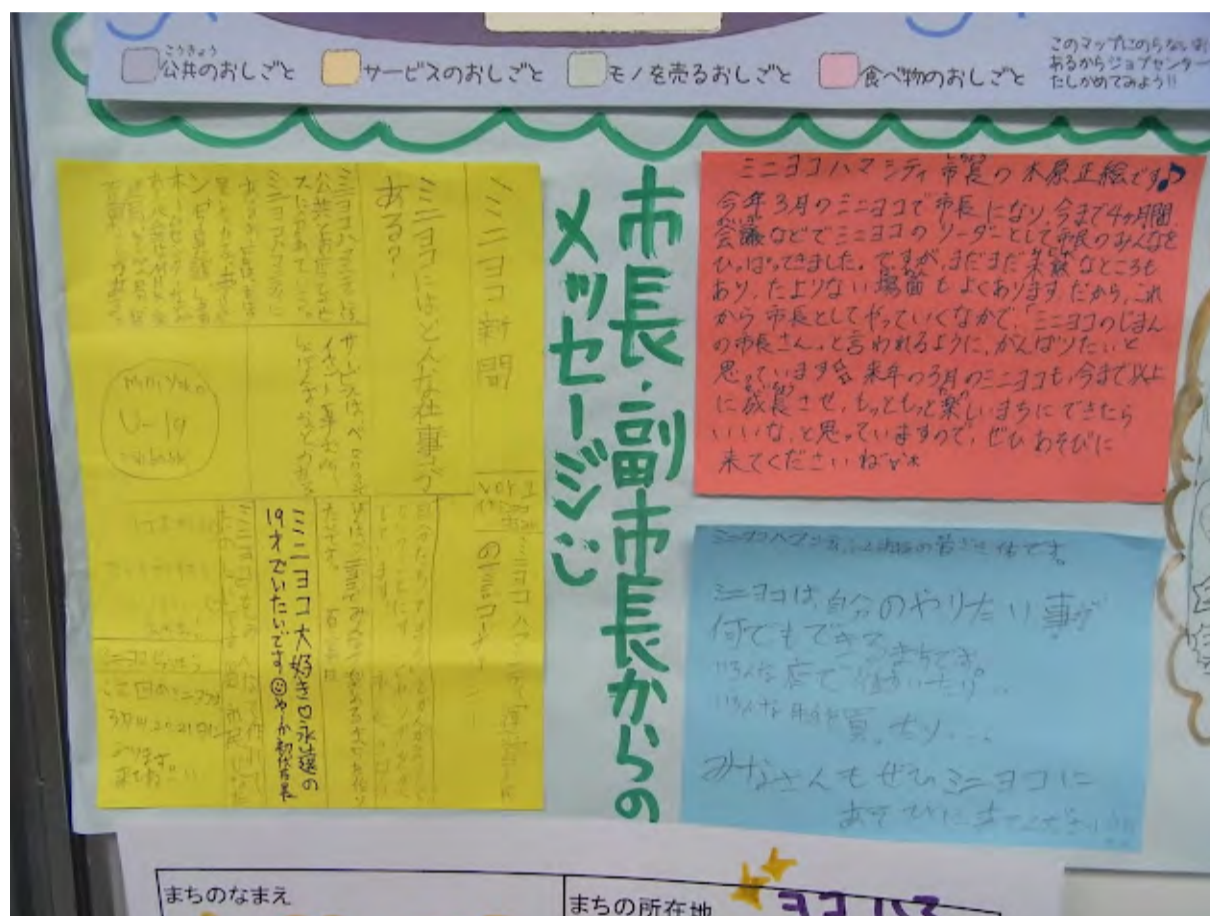
選挙戦を見守る（守る？）警察署長の彼（右ヘルメット）



2010年のミニヨコ警察署

## なご City へミニヨコ参上! (2010年)

ミニヨコハマシティ宣伝のために名古屋にある「名古屋子ども City」へ行きました! ミニヨコは19歳まで入れるのに名古屋 City は18歳までしか入れなかったのが当時19歳だった2人が入れませんでした。「なんとか名古屋 City を見たい!」という気持ちから建物のスキマから19歳の2人は侵入し、ミニヨコの企画で行っていた「あらめや音頭」を踊り、その後そっと現場を逃走しました。2人は「18歳以上か、ばれないかドキドキした」と言っていた。なご City のみなさん、ルール違反して、ごめんなさい。いまではいい思い出です。



名古屋で行われた、こどもまちのこどもサミット

### 3月震災のためミニヨコ中止、5月ミニヨコ畑開始、8月トリエンナーレ参加(2011年)

ずっと1年準備してきた、ミニヨコ。3月17日18日に予定していたけど、開催目前に震災があり中止。理由は計画停電と余震がその後もおきていたためというけど、電気がなくなってもまちはできる、だからみんなであつまって考えたかった。同じ思いのこどもたちが20人くらい集まってきて、節電でうすぐらくなかった施設の中で、ゆっくり話し合った。そして、私たちは畑をやることになった。



毎年春休みに開催してきた、こどものまち「ミニヨコハマシティ」。3月17日18日の開催目前、震災があり中止となりました。1年かかりで準備してきた運営こども市民のショックは大きく、17日、集まってきてしまった運営市民のこどもたちで、緊急こども会議が開かれました。最初は「なんでまちができないんだろう。電気がなくてもまちは存在するのに」という疑問からはじまり、もう5年目に入るミニヨコのまちに、「原点回帰」「地産地消」というキーワードが出てきました。昨年JA横浜に、地元野菜をもらってイベントをしたことから、JAの方に「野菜を協賛してもらうんじゃなくて、自分たちで畑をやったら？」と言われていました。そういったいくつかの条件が重なり、「ミニヨコビレッジ」のプロジェクトがスタートしました。そうか、畑なんだから、「ミニヨコハマシティ」じゃなくて、「ミニヨコビレッジ」だ!ということになり、あっという間にプロジェクトがスタートしました。そう、こういうスピード感が私たちのよいところなのです。

まずは、すぐに作業する畑を探しました。NPOがいままでつながりのあった、農作業をしている福祉施設に声をかけ、一緒にやらせてもらうことになりました。苗は、この活動を勧めてくれたJA横浜さんに協賛してもらいま

した。苗を植え、草取りをし、手入れをする、ミニヨコにはいままでにない、定期的な活動でした。もう10年もやっている福祉施設「都筑ハーベスト」の方に教えてもらいながら作業していましたが「畑ってすごい」というのが本当の感想です。野菜が実りだすと、本当に次々と実をつけ、「全部収穫した」と思って次の日見に行くと、また収穫できるのです。恒例のミニヨコ夏まつりを行った7月には、ミニヨコ畑でつくった野菜でできた、本当に具がたくさん入ったスープが提供できました。しかも、農薬を使っていない手作業で作った野菜は、本当においしいし、安心して食べられるのです。

偶然はまだまだ続き、念願だった横浜トリエンナーレに、ミニヨコとして参加することになったのですが、参加する場所の名前が「新港村」。ここにも「村」という文字があったので、イベントタイトルも「こどもが創るこどもの村」と名付けました。横浜市中区、海のそばの建物「新港村」の自由広場に、「こどもが創るこどもの村、ミニヨコアートビレッジ」として参加。こどもたちと一緒に育てた野菜をプランターに入れ運び、会場に畑を再現しました。そして収穫した野菜を山盛り使った野菜スープを会場で販売しました。



ミニヨコアートビレッジの空間は、建築家の遠藤幹子氏とこども市民でワークショップして作った“草むらはうす”、野菜のプランターでできた畑、を中心に、当日も遠藤幹子氏ワークショップしながら、こどもたちがだんだん村を完成させていく、というスタイルをとりました。この村に入るこどもたちには、こども自身もひとつのアート作品として、蝶やうさぎ、カブトムシなどの「族」を選んで扮装し、ビレッジの中で働いたり、遊んだり。ビレッジには横浜建設業青年会とのワークショップで木の家も建設しました。ここで村をつくる作業に参加したこどもには「ミニヨン」という通貨がもらえて、そのミニヨンでスープやフルーツカクテルジュースが買えるというしくみです。ちなみにこどものまちなので、大人(20歳以上)

はミニヨンがもらえません。

最終日には、この新港ピア自由広場に創りつづけてきた、ミニヨコアートビレッジ会場で、日本各地にあるこどもまちの活動に関わっているアンダー19を招き、U-19シンポジウム（別途報告あり）を開催しました。こどもたちが仮想のまちを創るミニシティの活動を、リアルなまちにどのように活かしていけるのか？などをテーマにこれからまちに関わろうという世代であるU-19がディスカッションしました。このディスカッションで力強く、楽しく語るU-19たちに未来は明るいな～と思いました。トリエンナーレに参加している大人のアーティストに混じって、新港村の村民として、参加させてもらったU-19達は、みんなキラキラと輝いていました。



ミニヨコアートビレッジ 2011

## ミニヨコ in ハウスクエア横浜（2012年）

今回、なにもないところから、新しいまちをつくったとしたら、まず何をつくりませんか？というワークショップを行い、今回のミニヨコはスタートしました。その中でも特に、「災害につよいまちにしよう」というコンセプトも話して、まちに欲しいもの、必要なものを付箋で出し合い、その後地図のような絵を、グループごとに書いていきました。

大人は今回の震災を受けて、コミュニティスペースとか大きな広場とか病院とかをイメージしていたのですが、こどもたちはまったく違いました。とにかく「遊び場」なのです。ロッククライミングの壁、プール、公園・・・もちろん警察、消防、図書館、学校などもありました。

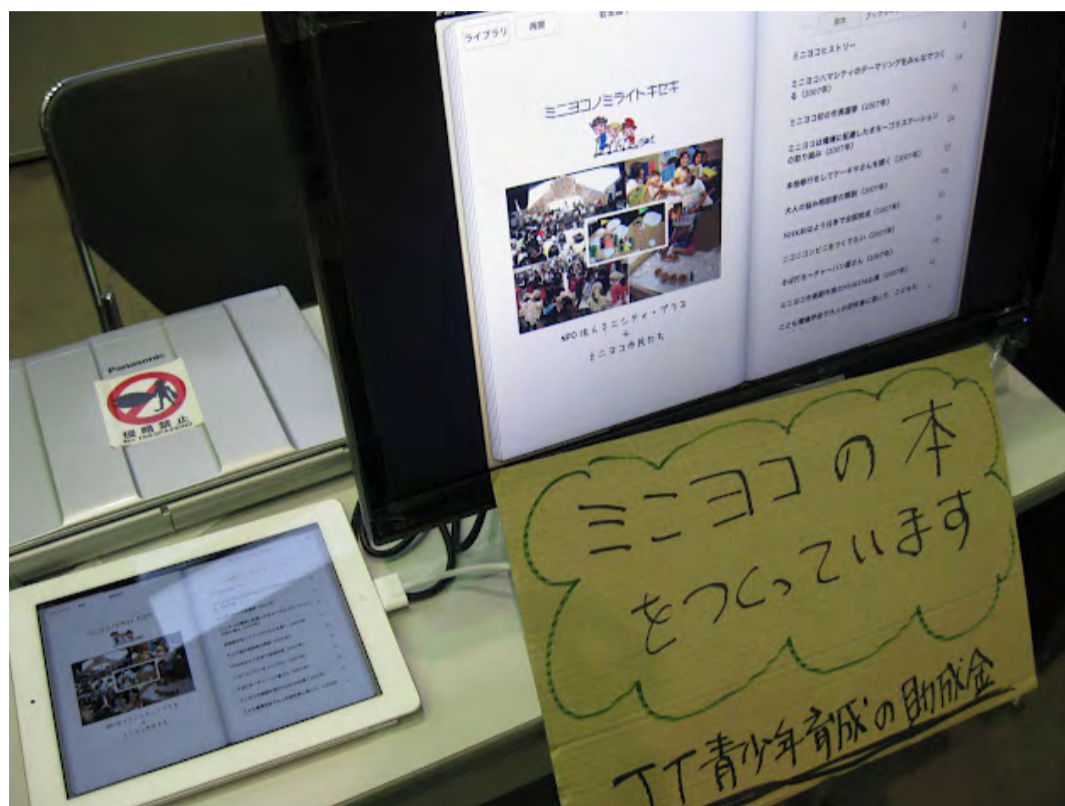
で、最終的に採択された今回のミニヨコ建築物は、「お菓子の家」!! いざというときに食糧にもなる、というのです。災害に強いまちとしての企画がお菓子の家づくりとは、ミニヨコ的ではありますが・・・さて、完成したものは？



お菓子の家をつくりたい、という希望は、もう何年もワークショップで出ていたのですが、とうとう実現することになりました。とはいってもヘンゼルとグレーテルのお菓子の家のように、屋根がチョコレート、壁がビスケットと、とするとその後衛生上の問題から食べられず、捨てることになってしまうため、結局包装されたままの、キャンディやクッキー、チョコになりました。災害に強いかどうか、はわかりませんが、こどもたちにとっては、とてもうれしかったようです。

これからミニヨコはどうなっていくのでしょうか。

当日は会場に電子本の途中経過が展示されました。



当日3月11日の震災のあった時間にみんなで黙とうをしました。



この電子本プロジェクトの最初のワークショップでとった写真「みんなにとってミニヨコを漢字一文字で表すと？」をぜひみてください。



## ミニシティ・インタビュー

2011年8月、トリエンナーレ連携企画の新港ピアで、ミニヨコ市民は「ミニヨコアートビレッジ」を開催しました。最終日には全国のこどものまちの活動をしている子どもたちを招いて、U-19シンポジウムを行いました。以下は、その中での発言やインタビューをもとに、まとめたものです。



## It's a small CBT( イッツアスモールシービーティー)

やっている場所：千葉市子ども交流館（きぼーる内）

第1回（2009年4月25日）から行い、いままでに3回開催しました。

[It's a small CBT のホームページ](#)

イッツアスモールCBTで初代市長を務めた、「しげちゃん」にインタビューしました！

Q：どんな組織がやっていますか？

A：千葉市こどものまちCBT実行委員会です。

Q：運営はどのように？資金は？

A：市役所の助成金と企業の協賛で行なっています。

大人スタッフは、市の職員、市議会、劇場系の人などです。

支出の主なものは、お店の料理等の材料費、場所を借りるお金などです。

子どもたちはだいたい300人くらいが参加します。

解説) 千葉市には、「こども未来局こども未来部こども企画課」というすてきな名前でお仕事する市役所の所管があります。このまちには本物の千葉市長さんも訪れます。

[市長さんのブログ](#)にも訪問したことが、かかれていました。

Q：運営していて、思うことを何でも教えてください

A：中高生の参加が少ないことが残念です。

大人が引っ張っちゃってると感じることもあります。

子どもたちの意見を引き出しきれてないところがあります。

子ども主体ということに、子どもも大人も慣れていないのだと思います。

参加していたけど、居なくなってしまう子どもたちは、たぶん「部活が忙しい」ということがあります。もしかしたら参加して「楽しくなかった」という人もいるのかもしれませんが。継続して参加していかないと中高生は増えないです。

Q：あなたにとって、こどものまちの魅力はなんですか？

A：こどものまちではなんでもチャレンジできます。そして友達が増えます！！

Q：こどものまちで体験したことを踏まえて、大人のまちをどんなまちにしたいですか？

A：大人も子どももお互いを尊重しあえるまち、子どもに優しい社会にしたいです。

U-19 シンポジウムで魔女? に扮する

しげちゃんこと、内海菜々花さん



自己紹介・まち（活動）紹介 内海菜々花さん

自己紹介フリップ↓		まち（活動）紹介フリップ↓	
どのまちから来た？ 千葉市	イチオシのおみやげ ピーナッツ	こどものまちの名称 イツアスモール CBT (ChibaTown)	こどものまちの会場 きぼーる (子ども交流館)
イチオシの建造物 千葉ポートタワー	こどもが集まる場所 きぼーる (子ども交流館)	市民の主な年齢層 高校生まで	こどものまち何年目？ 2年半 (開催は3回)

「こどものまちのトピック～自分のこどものまちでのイチオシを紹介」

ライブハウス。子ども交流館で練習している人に演奏してもらおう。こどものまちで働くともらえる、こどものま

ちのお金がギャラ。

「こどものまちにかかわったことによる自分の変化」

自分の意見を積極的にいえるようになった。それは大人も含め、まわりのみんなが意見を聞いてくれるから。学校以外の友達がたくさんできて、学校ではできない体験ができ、それが人生の役に立っている。

「こどものまちでの、大人とのかかわり」

大人が子どもたちを信頼してくれる。子ども心がわかってくれる大人がたくさんいる。

「こどものまちのいいところ」

自分たちがやりたいこと、なんでもチャレンジできるところ。大人のことを気にしなくていいところ。いろいろな友達ができるところ。

「どんな社会になったらいい？」

こどもも大人も尊重できる社会がいい。大人から一方的に言われることが多いけど、こどももいい意見をもっている、ということがこどものまちをやっていてわかったので、こどもの意見も取り入れてほしい。また、日本はまだまだこどもにやさしい社会でないということがわかったので、もっとこどもに優しい社会になるといい。こどもが安全に遊べる場所をもっと欲しい、大人は歩きたばこはやめてほしい。

「個人的にこれからやりたいことはなに？」

こどものまちを盛り上げるスタッフになりたい。子どもたちが集まることができる場所をつくってそこに居座りたい。

## とさっ子タウン

やっている場所：りょうまスタジアム（高知市陸上競技場・自転車競技場）

第1回（2009年6月）から行い、いままでに4回開催しました。

[とさっ子タウンのホームページ](#)

とさっ子タウンの大人スタッフ「森岡さん」にインタビューしました！

Q：どんな組織がやっていますか？

A：主催は、「とさっ子タウン」実行委員会です。

高知市市民活動サポートセンターの指定管理を行っている特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議が事務局で、高知市民憲章推進協議会にも協力してもらっています。

Q：運営はどのように？資金は？

A：2001年度は協賛金40万、市民憲章より30万、高知県労働組合ファンドから30万、あとは参加費1000円×300人=30万で運営しました。

実行委員は約100名、大人が半分、大学生が半分くらいの割合ですが、全員無償ボランティアでの参加です。当日のスタッフも100名（実行委員を含めると200名）で、そのうちの半分はその職業の専門家の方がいますが、そちらもお医者さん以外は、無償ボランティアです。当日の消耗品のみ、事務局の負担です。

ですので、おもな支出は、食費、材料費、デザイン費（スタッフにデザイナーさんがいて安くやってもらっている）です。

完全申し込み制なので、300人限定のまちです。

解説）高知ではとくにスタッフが充実していると感じますが、それらの人たちが全員無償ボランティアであることに驚きました。大学生がたくさんはっているのも魅力です。

Q：運営していて、思うことを何でも教えてください

A：こどもたちの発想のすばらしさ、起業精神のすばらしさに感動します。自分なりの楽しみ方をしていて、本当に楽しそうです。

市長がかかわると、市長のマニフェストによってまちの仕組みが変わってしまう、ということが大変でした。それらは議会の設置を行い、話し合う場をつくることで解決してきました。

Q：あなたにとって、こどものまちの魅力はなんですか？

A：予想ができない楽しさがあります。こどもだけでなく、大人スタッフも楽しく、わくわくできるということが魅力です。たとえば、社会科の授業の中で税金を学んでいるときと、子どものまちで実際に税金を払い、体感しているときの子どもたちでは、目の輝きが違います。

Q：(大学生スタッフ、おっくんに聞きました) あなたが子どものまちで得たものはなんですか？

A：「何事も楽しみながら取り組めるようになった」ということです。



U-19 シンポジウムで発言する、尾崎さん

## 自己紹介・まち（活動）紹介 尾崎昭仁さん

自己紹介フリップ↓		まち（活動）紹介フリップ↓	
どのまちから来た？ 高知県高知市	イチオシのおみやげ いもけんぴ ぼうしパン	こどものまちの名称 とさっ子タウン	こどものまちの会場 りょうまスタジアム (自転車競技場)
イチオシの建造物 高知城	こどもが集まる場所 山 & 川	市民の主な年齢層 小学4年～ 中学3年	こどものまち何年目？ 3年目

「こどものまちのトピック～自分のこどものまちでのイチオシを紹介」

高知らしさを大切に。漫画王国、路面電車がある街なのでこどものまちにもそれらを取り入れている。

「こどものまちにかかわったことによる自分の変化」

何事も楽しみながら取り組めるようになった。

「こどものまちでの、大人とのかかわり」

大人は優しく見守ってくれる。

「こどものまちのいいところ」

わくわくできるところ

「どんな社会になったらいい？」

こどもが考えることができている社会がいい。こどもが考えたことがいえる場所があることがいい。こどものまちにはそれがある。

「個人的にこれからやりたいことはなに？」

やりたいことをやっていきたい。

## エンジョイスマイルさがみ

やっている場所：麻溝公民館

2年目になりました。

[エンジョイスマイルさがみのブログ](#)

とさっ子タウンの大人スタッフ

「山家さん」にインタビューしました！

Q：どんな組織がやっていますか？

A：シゲンジャープロジェクト・ラボです。

シゲンジャープロジェクト・ラボとは、2010年3月に設立された非営利団体で、会員は現在7名です。

相模原市の分別ごみ啓発キャラクターである『分別戦隊シゲンジャー銀河』ファミリーのキャラクターを使ったエンタテインメントな市内のイベント、市民桜まつりやリサイクルフェアなどを相模原市資源循環推進課と一緒に運営しています。

また、資源循環や環境のイベント『シゲンジャーキッズ ミニシティさがみはらプログラム』を活用し、『エンジョイスマイルさがみ』という子どものまちを麻溝地域の子ども青少年たちと一緒に運営しています。

Q：運営はどのように？資金は？

A：100% 相模原市からの助成金です。

完全申し込み制なので、100人限定のまちです。

とくに交流する費用に力を入れています。いろんな子どものまちを見せるため、他のこどものまちにこどもたちを連れて出かけています。また、まちの開催時の材料はいい素材を子どもたちに使ってもらいたいと思っています。

Q：運営していて、思うことを何でも教えてください

A：最初は学校で習ったこと通りにすべてをやろうとしてしまうので、もっと想像力を持ってもらいたいと思い、ミニヨコなどのまちを見学しているうちに変わってきました。

Q：あなたにとって、こどものまちの魅力はなんですか？

A：こどもたちが、自分たちで理想のまちをつくるということが、将来地元を変えていける人材、力を育てていける、と思っています。

**自己紹介・まち（活動）紹介 川上華菜子さん & 佐藤まりなさん**



自己紹介フリップ↓		まち（活動）紹介フリップ↓	
どのまちから来た？ 神奈川県 相模原市	イチオシのおみやげ 横山っ子 (チーズケーキ)	こどものまちの名称 エンジョイスマイルさ がみ	こどものまちの会場 麻溝公民館
イチオシの建造物 宇宙科学研究所 JAXA 本部 (はやぶさ)	こどもが集まる場所 公園	市民の主な年齢層 小学3年～大学1年生	こどものまち何年目？ 2年目

「こどものまちのトピック～自分のこどものまちでのイチオシを紹介」

本当の商店街や銀行に見学に行って、実際にあるまちの仕組みを勉強して改善している。

「こどものまちにかかわったことによる自分の変化」

自分の力で問題を解決できるようになった。自分の意見を積極的にいえるようになった。人見知りしないようになった。

「こどものまちでの、大人とのかかわり」

大人は自分たちの夢を実現してくれるお助けマン。

「こどものまちのいいところ」

みんなの意見でルールを創ることができる。大人の決めているまちのルールではなく、こどものあたらしい発想でこどものまちをより楽しく創りあげることができる。

「どんな社会になったらいい？」

相模原のこども会議は、スマイルがあふれる会議です。ちょっと、笑わせたり、ふざけたところがあっても社会には笑いがあったほうがいい。平和なまちがいい。市民の意見を聞いてくれるまち。どんな人も働けていやな思いをしないまちがいい。争いが起きるといことは、不満があるということだから、それをちゃんと出したらいい。話し合いができるといい。

「個人的にこれからやりたいことはなに？」

みんなが平等であるような社会があるなら未来をみてみたい。



U-19 シンポジウムで発言する  
佐藤まりなさん（左）と川上華菜子さん（右）

## 仙台こどものまち

やっている場所：みどりの森幼稚園（仙台市青葉区）

第1回（2002年）から行い、いままでに10回開催しました。

[仙台こどものまちのホームページ](#)

仙台こどものまちのスタッフ、阿部智津子さんにインタビューしました。

Q：どんな組織がやっていますか？

A：こども未来フォーラムです。こども未来フォーラムとは、仙台ボランティアによる実行委員会です。

Q：運営はどのように？資金は？

A：最初は仙台市の助成金から生まれました。助成金がなくなってから4年経ちます。その年によりますが、たとえば去年は、入場料20%、子どもゆめ基金や河北新聞の助成金（河北ファンド）などの助成金から80%あまりを捻出しています。

支出の主なものは、消耗品、機材費、チラシ作成費などです。

運営はすべて本当に手弁当の無償ボランティアです。交通費もお弁当もなし。保育を勉強中の大学生も多く参加しています。

Q：運営していて、思うことを何でも教えてください

A：毎回資金には困っています。

参加しているこどもたちは、リピーターが6割です。往復ハガキで応募して、当選した200名が限定で入れます。親が応募して、無理やり連れて来られる子もいるようですが、最後には楽しみ、成長します。たった1日でも子どもは大きく成長します。

Q：あなたにとって、こどものまちの魅力はなんですか？

A：子どもの成長を見ることが楽しいです。また一緒に活動している実行委員（大人）がとても魅力ある人たちが多く、この活動が楽しみです。

## 自己紹介・まち（活動）紹介 五十嵐めぐみさん

自己紹介フリップ↓		まち（活動）紹介フリップ↓	
どのまちから来た？ 仙台市	イチオシのおみやげ たこせん	こどものまちの名称 仙台こどものまち	こどものまちの会場 みどりの森幼稚園 (仙台市青葉区)
イチオシの建造物 FM 放送局の近くの 石畳がきれい	こどもが集まる場所 勾当台公園 市民広場	市民の主な年齢層 小学生のみ	こどものまち何年目？ 10年目 (開催は10回)

「こどものまちのトピック～自分のこどものまちでのイチオシを紹介」

店長になってお店を開く店長プログラム

「こどものまちにかかわったことによる自分の変化」

周囲のことをみられるようになった。

「こどものまちでの、大人とのかかわり」

大人は先住民のボランティアノ族になってこどもを助けてくれる存在。

「こどものまちのいいところ」

友達と一緒に働いてアイデアを出し合い、それを実行できる。失敗をしてたくさんのかんことを楽しく学ぶことができる。

10歳のときから参加している。こどもたちに自分が10歳のときに楽しかったことをずっと伝えていきたい。

まちを開催しているときの、こどもたちの笑顔は自分を元気にしてくれる。違う学校のこどもとも、子どもたち同士のつながりがずっと続くことも魅力のひとつ。

「どんな社会になったらいい？」

笑顔がある社会にしたい

「個人的にこれからやりたいことはなに？」

アーティストのマネージャーになりたい。アーティストはみんなをハッピーしてくれるのでそれを、お手伝いできる仕事がしたい。



仙台こどものまちに10才から参加していて  
今は「仙台こどものまち」のお手伝いをしている  
五十嵐めぐみさん

## ミニいちかわ

やっている場所：大洲防災公園、行徳駅前公園、現代産業科学館など

2003年からスタートし、2012年は10回目を迎える。

[ミニいちかわのホームページ](#)

ミニいちかわの大人スタッフ渡慶次 康子さんにインタビューしました！

Q：どんな組織がやっていますか？

A：NPO 法人市川子ども文化ステーションです。

（渡慶次さんはNPO 法人 市川子ども文化ステーションの理事長をしています。）

Q：運営はどのように？資金は？

A：地域の方の協賛金、入場料、助成金など。

助成金は子どもゆめ基金に応募したり、市川市1%支援制度事業（市民が自分の収める税金の1%を自分の応援したい市民活動を指定する制度）を使ったりとくふうしています。

費用の使い道ですが、公園で行うときのテントや、イス、発電機のレンタル料、お店の材料費が主なものです。

マンパワーはすべて無償ボランティアで行なっています。会のメンバーが8割、他には地域の友人、大学生などで当日運営されます。

Q：運営していて、思うことを何でも教えてください

A：ミニいちかわは、毎年4日間で、4000人～5000人くらいが参加するので、スタッフの数はいくらあっても足りないのです。とくに準備の段階からのスタッフ不足、毎回変わってしまう中心メンバーの運営スタッフが悩みの種です。

ミニいちかわのこどもたちの特徴はとくにやんちゃな男の子が多いことです。当日わくわくしながらなにかいたずらを企んでいたりして、それもおもしろいんです。

Q：あなたにとって、こどものまちの魅力はなんですか？

こどものまちでは子どもたちの輝きが違います。また子どもと関わる大人たちが成長しています。こどもの主体性を活かしたこの活動への理解が年々深まっていると感じます。スタッフも悩みながらやっていることを理解してもらうことで、苦情がほとんどなくなりました。

## 自己紹介・まち（活動）紹介 勝山直毅さん

自己紹介フリップ↓		まち（活動）紹介フリップ↓	
どのまちから来た？ 市川市	イチオシのおみやげ 梨、のり	こどものまちの名称 ミニいちかわ	こどものまちの会場 千葉現代産業科学館と 行徳駅前公園
イチオシの建造物 コルトンプラザ市川店	こどもが集まる場所 こども館	市民の主な年齢層 小学校高学年が多い	こどものまち何年目？ 10年目

「こどものまちのトピック～自分のこどものまちでのイチオシを紹介」

会場のように流す、本物のFM放送がある。

「こどものまちにかかわったことによる自分の変化」

自分のことしか考えなかったのに、友達のことを考えられるようになった。相談しながらまちをつくっていかないと自分も仕事につけなかつたりする。

「こどものまちでの、大人とのかかわり」

大人は優しくこどもを見守ってくれている。

「こどものまちのいいところ」

友達と一緒に働いてアイデアを出し合いそれを実行できる。失敗をして、たくさんのことを楽しく学ぶことができる。

ふつうの社会では、決めたことを決められた通りにやることが多い気がする。こどものまちでは、自分でアイデアを出していける。自由な発想が許されるし、実現できる。失敗が許されるよさがある。こどものまちでは、どんな発言もゆるされる。それがいい。

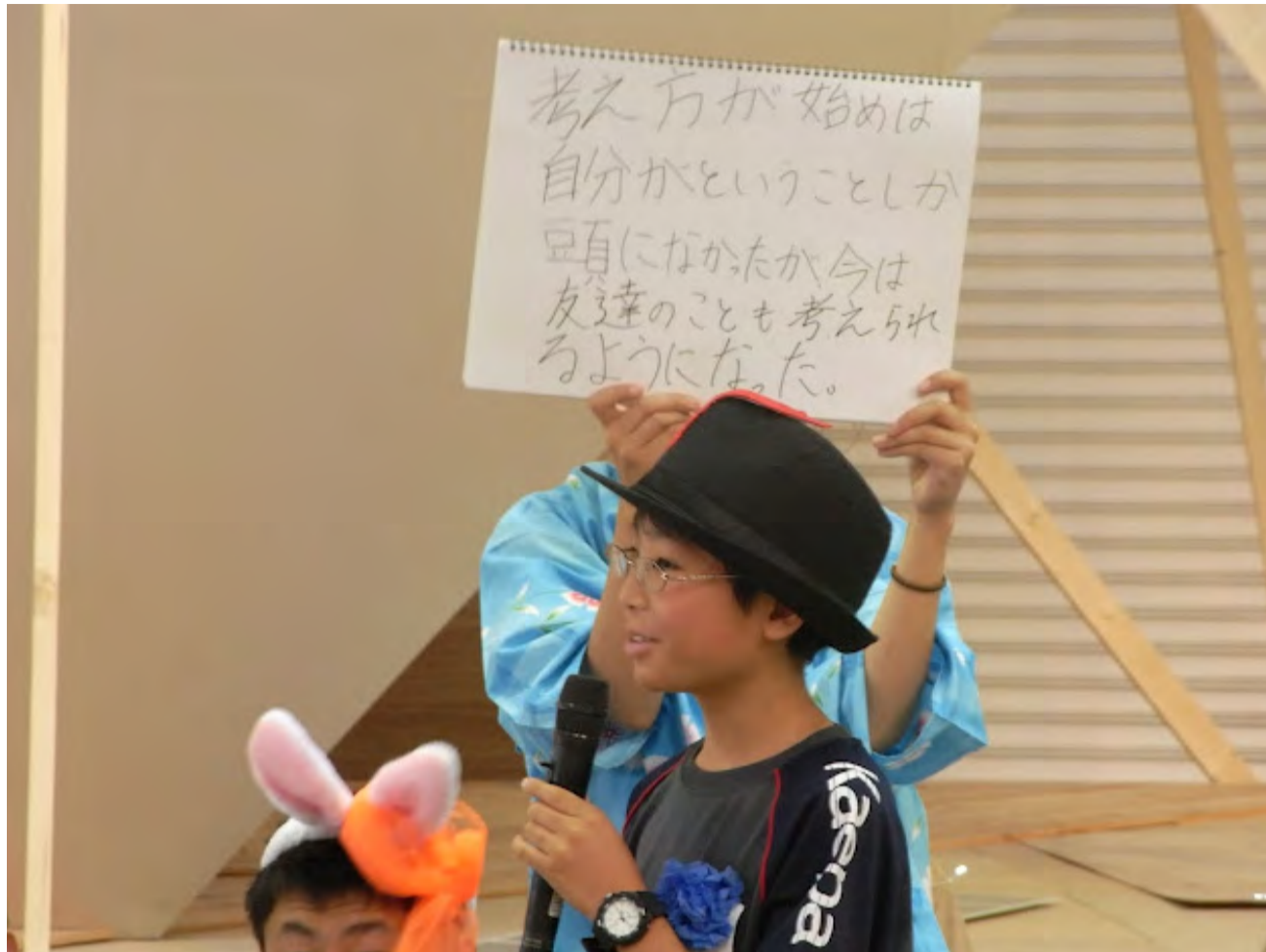
「どんな社会になったらいい？」

地域のきずなができる社会にしたい。

イベントなどをすることで、地域のきずなができるのではないかな。

「個人的にこれからやりたいことはなに？」

みんなを助けたい。そういう人になりたい。



U-19 シンポジウムでの、ミニいちかわの 勝山直毅さん



## ミニ☆大阪

やっている場所：堺市梅文化会館

2008年よりスタート、毎年行い、5年目になります。

[ミニ☆大阪のホームページ](#)

ミニ☆大阪から来てくれた、城庵颯（はやて）くんにインタビューしました。

Q：どんな組織がやっていますか？

A：ミニ☆大阪プロジェクト実行委員会です。

ミニ☆大阪プロジェクト実行委員は、ミニ☆大阪の軸を担う、地域の中学1年生～18歳の子ども実行委員の子どもたちから成る、「こども実行委員会」と、「ミニ☆大阪実行委員会のおとな」（子ども実行委員の子どもたちを応援する地域のボランティアさん）から成り立ちます。

Q：運営はどのように？資金は？

A：入場料と助成金です。

支出は材料費が主です。広報は自分たちの口コミやチラシの配布と、「泉北コミュニティー」という地域紙に募集記事を載せてもらっています。「泉北コミュニティー」は開催当日にボランティアに来てくれる泉北コミュニティーの記者さんが無料で載せてくれています。

マンパワーは無償ボランティアに頼っています。

Q：運営していて、思うことを何でも教えてください

A：回数を重ねていくと、マンネリ化もあります。後継者は減ってしまいましたが、継続してくれる子どもの方が多いです。

2日間のまちを開くと、2日間かけてだんだん楽しさが増してきます。2日間で子どもたちは自信がつくのが見て取れます。

Q：あなたにとって、こどものまちの魅力はなんですか？

こどものまちは変化していくこと、が魅力です。起業が盛んなまちなので、刻々と変化していくのが魅力です。こども市民の動きでまちの雰囲気が変わり、方向性が変わります。

## 自己紹介・まち（活動）紹介 城庵颯さん

自己紹介フリップ↓		まち（活動）紹介フリップ↓	
どのまちから来た？ 堺市	イチオシのおみやげ けし餅、包丁	こどものまちの名称 ミニ☆大阪	こどものまちの会場 梅文化会館（堺市）
イチオシの建造物 大仙古墳	こどもが集まる場所 ビッグバン（大型児童館）	市民の主な年齢層 小学1年～18歳	こどものまち何年目？ 5年目

## 「こどものまちのトピック～自分のこどものまちでのイチオシを紹介」

スパイという職業がある。スパイの事務所で指令をもらう。それはなぜなぜになっいて解く。解けた問題の数で給料に差がつく。

## 「こどものまちにかかわったことによる自分の変化」

全体を見通して自分の仕事ができるようになった。

## 「こどものまちでの、おとなとのかわり」

おとなは優しく見守ってくれる。

## 「こどものまちのいいところ」

こどものまちのいいところは、簡単に変えられるところ。

ミニ☆大阪では、起業ができる。まちがどんどん変化し、次々あたらしいルールができる。それが魅力。大人の社会ではなかなか憲法や法律を変えるというのがスピード感はないのでは？

## 「どんな社会になったらいい？」

地域のなかで交流があると笑顔がもっと生まれると思う。最近は近隣の人との交流が少ないから笑顔がない気がする。それから、もうひとつは、力関係のない社会を実現したい。こどものまちがそうであるように、意見を自由にいえるといい。

## 「個人的にこれからやりたいことはなに？」

まず自分が好きなことをする。まずは自分が幸せでないとまわりを幸せにできないので、まず自分が幸せになる。



U-19 シンポジウムで発言する城庵颯（はやて）くん

## だがねランド

やっている場所：名古屋都市整備公社 名古屋都市センター内

毎年夏休みに行なっています。

[だがねランドのブログ](#)

だがねランドの市長を務めていた、磯部龍真さんにインタビューしました。

彼は若干中学1年生で、運営に関してはよくわからない、とのことなので、U-19シンポジウムでの発言のみ、まとめてあります。



だがねランドは、だがねずみというねずみのキャラクターがいます。

### 自己紹介・まち（活動）紹介 磯部龍真さん

自己紹介フリップ↓		まち（活動）紹介フリップ↓	
どのまちから来た？ 名古屋北区	イチオシのおみやげ 手羽先、寿がきやラーメン	こどものまちの名称 だがねランド	こどものまちの会場 ボストン美術館のある 11Fビルの中 名古屋都市センター
イチオシの建造物 名城公園（名古屋城）	こどもが集まる場所 公園	市民の主な年齢層 対象年齢決まってない 約中学3年まで	こどものまち何年目？ 6年目

「こどものまちのトピック～自分のこどものまちでのイチオシを紹介」

今年の一押しは図書館。去年は学校。一昨年は劇場。だかねランドは模型をつくってから、実物大のまちをつくる。図書館には建築の本がずらっと並びます。毎年イチオシは違います。

「こどものまちにかかわったことによる自分の変化」

ひとりひとりの意見をよく聞いて、いいところを取り入れることができるようになった。町をまとめるときにみんなの意見を取り入れる。他の人の意見を聞くことができるようになり、それをまとめ、生かしていけるようになった。

「こどものまちでの、大人とのかかわり」

大人は、お金を印刷したりしてくれる。

だかねオールスターズという建築家の方がとても優しくまちをつくることを教えてくれる。

「こどものまちのいいところ」

商品をつくるだけでなく、だかねデザイン賞などもある。つくることの楽しさがある。大人との距離感がなく、住人も年齢に関係なく、よい友達になれるところ。

「どんな社会になったらいい？」

年を気にしない。アイデアあふれる社会、まち 平和ですみやすいまちにしたい。

安心して眠れる社会がいい。

「個人的にこれからやりたいことはなに？」

自分より小さい子どもたちが楽しそうにしている笑顔が好き。だからかかわっていきたい。

## ミニヨコハマシティ

やっている場所：横浜市都筑区

2007年から5回開催

[ミニヨコハマシティのホームページ](#)

主催者として、

Q：どんな組織がやっていますか？

A：NPO法人ミニシティ・プラスが行なっています。2006年に生まれたミニヨコハマシティ研究会とNPO法人I Love つづきが、最初にはじめたミニヨコハマシティから、NPO法人ミニシティ・プラスは生まれました。

Q：運営はどのように？資金は？

A：開催場所のハウスクエア横浜からの協賛金、年度ごとに申請している助成金、そしてお金ではなくても多くの物資や人的支援などに助けられて、基本ボランティアベースで運営しています。

Q：運営していて、思うことを何でも教えてください

A：いつも人手が足りなくて困っています。そのためか、逆に子どもたちが大人を頼らず、強くなっています（笑）。  
子ども市民には、まちの開催時に「なにか困ったことが起こったら、1.自分で考える。2.まわりの友達に相談する。3.大人に相談する、という順番で」といっているくらいなので、知らない間にまちがいろいろ変化していますが、けっこう大丈夫です。

何回もやっているなので、新しく創るという部分に欠けて来ていて、大人がみていて、もっとはじけて欲しいと思います。

Q：あなたにとって、こどものまちの魅力はなんですか？

A：大人もやりたいような、奇抜なアイデアを出していけること。こどもと同じように遊べる気分がいけること。  
こどもたちが楽しそうにしているのをみるとハッピーになる。大人の世界もいつも笑顔あふれるまちだといいな。

## 自己紹介・まち（活動）紹介 百崎佑さん

自己紹介フリップ↓		まち（活動）紹介フリップ↓	
どのまちから来た？ 横浜市	イチオシのおみやげ 横浜発 ナポリタンあられ	こどものまちの名称 ミニヨコハマシティ	こどものまちの会場 ハウスクエア横浜 (住宅展示場)
イチオシの建造物 都筑区の 15キロある緑道	こどもが集まる場所 光が丘公園 (家の近く)	市民の主な年齢層 4歳～19歳	こどものまち何年目？ 5年目

「こどものまちのトピック～自分のこどものまちでのイチオシを紹介」

たこせん占い。たこせんのソースの模様で恋愛運などを占う。

「こどものまちにかかわったことによる自分の変化」

緊張しないで自分の想いを自分の言葉で伝えられるようになった。

「こどものまちでの、大人とのかかわり」

大人は教師でもお母さんでもなく、ミニヨコの先輩。

「こどものまちのいいところ」

大人口出し禁止だから、こどもの思い通りに好きなことができる。

今の社会は簡単に職につけないけど、こどものまちでは、いろんな職につける。

「どんな社会になったらいい？」

上下関係の無い社会。もしあったとしても自由に発言できる社会がいい。



U-19 シンポジウムで発言する、百崎佑さん



## &lt; 日本の minicity リンク集 &gt;

ウェブサイト名	対象範囲（地域）	運営者名	備考
ミニヨコハマシティ ミニヨコハマシティ・facebook ページ	横浜市都筑区	NPO 法人ミニシティ・プラス	運営者 URL facebook
オホーツク MINI タウン	北海道北見市	オホーツク地域青年活動プロジェクト	
ミニさっぽろ	北海道札幌市	ミニさっぽろ 2011 実行委員会	
せんだい・こどものまち	宮城県仙台市	こども未来フォーラム	
こどものまち・かしわ CITY	宮城県仙台市（太白区中央市民センターを拠点）	大学生企画団体 IMAYO!	運営者 URL
こどもがつくるまち「Piccoli せんだい」～ Miyagino ～ (劇常茶飯事)	宮城県仙台市	ピコせんサポーター事務局	運営者ブログ URL
こどものまち・ミニかぬま	栃木県鹿沼市	ミニかぬま実行委員会	運営者ブログ URL
ラーバンこどものまち	千葉県印西市	いんざい子ども劇場	
ピノキオマルシェ(ピノキオプロジェクト)	千葉県柏市	ピノキオプロジェクト 2011 実行委員会	
ミニいちかわ ミニいちかわ・facebook ページ	千葉縣市川市	NPO 法人市川子ども文化ステーション	運営者 URL facebook
キッズビジネスタウンいちかわ	千葉縣市川市	千葉商科大学	運営者 URL
こどもがつくるまち ミニさくら ミニさくら・facebook ページ	千葉県佐倉市中志津	NPO 子どものまち	facebook
こどものまち・イツアスモール CBT	千葉県千葉市	「こどもの力」フォーラム	
スマイル・グリーン・シティ	千葉県千葉市緑区	NPO 法人緑区こどもサポートセンター (千葉市緑区)	
ならしのこまち (ならしの子ども劇場)	千葉県習志野市	NPO 法人ならしの子ども劇場	運営者ブログ URL
子どもがつくるまち・ミニうらやす	千葉県浦安市全域、千葉県内の一部、その他	特定非営利活動法人チャイルド広場	運営者 URL
子どもがつくるまち・むさしのミニタウン	東京都武蔵野市	子どもの参画をすすめる会	
こどものまち・ミニ小金井 こどものまち・ミニ小金井・facebook ページ	東京都小金井市	NPO こがねい子ども遊パーク	運営者ブログ URL facebook
子どもがつくるまち・ミニたちかわ	東京都立川市	NPO 法人こどもと文化協議会・プラッツ	
こどものまち・ミニぎょうだ	埼玉県行田市	NPO 法人子育てネット行田	県政ニュース URL

ミニまつぶし (まち研)	埼玉県北葛飾郡松伏町	NPO 法人 全国生涯学習まちづくり協会	運営者 URL
ミニまつぶし 2011(デンリュウサイ タマ)	埼玉県東部、松伏町	松伏町 教育文化振興課 社会教育担当	埼玉ポータル サイト
子どものまち・ましがるつ (広報つ るがしま)	埼玉県川越市	つるがしま子フェス市民会議	鶴ヶ島市 URL
子どものまち・ミニかわごえ	埼玉県川越市	NPO 法人子ども大学かわごえ	運営者 URL
ミニさいたま	埼玉県さいたま市	NPO 法人子ども文化ステーション	さいたま市 URL
こどもがつくる町・Coみなみ	埼玉県さいたま市武蔵浦 和	埼玉地域ボランティア活動推進委員会 NPO 法人 むさしうらわ街ネット NPO 法人 さいたま NPO センター	運営者 URL
ミニあさか	埼玉県朝霞市	朝霞市教育委員会生涯学習課	埼玉県県政 ニュース URL
エンジョイスマイルさがみ 田名っちょタウン スマイルミニシティプロジェクト facebook	神奈川県相模原市	スマイルミニシティプロジェクト	運営者ブログ URL  facebook
子どもがつくる町ミニたまゆり 子どもがつくる町ミニたまゆり・ facebook ページ	神奈川県川崎市麻生区	田園調布学園大学	運営者 URL facebook
あそびのまち (長野県民新聞社)	長野県	「あそびのまち」実行委員会	長野県民新聞 社 URL
にじの子タウン コミュニティステーションにじの子 広場	静岡県伊豆市	NPO 法人天城こどもネットワーク	運営者 URL 運営者ブログ URL
こどもクリエイティブタウン	静岡県静岡市清水地区	静岡市経済局商工部産業政策課	静岡市 URL こどものまち イベントの常 設型を目指す 施設
安城市 こどものまちドリームタウン	愛知県安城市	愛知教育大学大村研究室 NPO 法人おやこでのびっこ安城	安城市 URL
こどものまち・みずほ	愛知県名古屋市	NPO 法人名古屋おやこセンター	運営者 URL
子どものまち・ピンポン横丁 (なる みぱらだいす)	愛知県名古屋市緑区	特定非営利活動法人こども NPO	地域ポータル サイト
だがねランド 2008 (名古屋都市セン ター)	愛知県名古屋市	財団法人名古屋都市センター	運営者 URL
キッズタウンなかむら (MST)	愛知県名古屋市	NPO 法人子ども & まちネット	運営者ブログ URL
子ども City in Zoo	愛知県名古屋市	特定非営利活動法人わが家流子育て応援 団ふりあん	
エコットキッズタウン 2010 (eco-T 通信)	愛知県豊田市	IYOIYO おいでん実行委員会	PDF

なごみん横丁	愛知県岡崎市	NPO 法人岡崎まち育てセンター・リた	運営者 URL
おかざきマーブルタウン	愛知県岡崎市	社団法人岡崎青年会議所	
とさっ子タウン	高知県高知市	NPO 高知市民会議	運営者 URL
ゆめのまち (愛知県丹羽郡)	愛知県丹羽郡	NPO 法人子どもと文化の森	運営者 URL
かさまつ子どものまち ミニかさ横丁	岐阜県笠松町	かさまつこどものまち実行委員会 (岐阜県笠松町)	運営者ブログ URL
四日市「こども四日市プロジェクト」(ゲンキ 3.net)	三重県四日市市	こども四日市プロジェクト	運営者 URL
こどもがつくるまち・京都 こどもがつくるまち チャキッズタウン	京都府京都市	(財)京都市ユースサービス協会 下京青少年活動センター	
ミニ京都 こどもがつくるまち ミニ京都・facebook ページ	京都府京都市	ミニ京都実行委員会	facebook
ミニまほろば	奈良県橿原市	ミニまほろば実行委員会	運営者ブログ URL
ミニ大阪 (cobon) ミニ大阪 2008 ~こどもがつくるまち~ (上町台地 .cotocoto)	大阪府大阪市	特定非営利活動法人こども盆栽	運営者 URL 上町台地ポータルサイト
ミニさかい (cobon)	大阪府大阪市 (関西圏 在住の子供達)	特定非営利活動法人こども盆栽	運営者 URL
ミニ★シティ (上町台地 .cotocoto)	大阪府大阪市	應典院寺町倶楽部	上町台地ポータルサイト
ミニ★大阪	大阪府大阪市	ミニ☆大阪実行委員会	
ミニたからづか (たからづかキッズ)	兵庫県宝塚市	宝塚市役所	
こどものまち高砂 2008 こどものまち高砂 2009 こどものまち高砂 2010 こどものまち高砂 2011 こどものまち高砂 twitter こどものまち高砂 Facebook こどものまち高砂スタッフブログ	兵庫県高砂市	こどものまち「高砂」実行委員会 特定非営利活動法人高砂キッズ・スペース 高砂市レクリエーション協会ほか	
こどものまち東播磨 2011	兵庫県東播磨地域	東播磨地域ビジョン委員会東播磨こども がつくるまち研究 生活創造センター「かこむ」	
志賀島子ども金印ランド	福岡県福岡市	福岡集会事務局	
子どもがつくるまち・ミニふくおか・ facebook ページ	福岡県福岡市	福岡市	facebook

## &lt; 世界の minicity リンク集 &gt;

**Spielstädte Deutschland (ドイツ)**

- [Abenteuerspielplatz Hammerschmiede/ Augsburg](#)
- [Astropolis/ Woerth](#)
- [Augustin Junior/ Bonn](#)
- [Burzelbach/ Reutlingen](#)
- [DIE SPIELSTADTan der Albert-Schweitzer-Strasse 24/ Hamburg](#)
- [Dudalon/ Hannover](#)
- [Dürkcity/ Bad Dürkheim](#)
- [Düsseldörfchen/ Düsseldorf](#)
- [FEZitty/ Berlin](#)
- [Gnurspelcity/ Weinsberg](#)
- [Henry town/ Hamburg](#)
- [Karamempel/ Esslingen](#)
- [Kidcity/ Leinfelden-Echterdingen](#)
- [Kidsville/ Bielefeld](#)
- [Kinderspielstadt Remsolino/ Waiblingen](#)
- [Kinderstadt Obertshausen](#)
- [Kinderstadt Darmstadt](#)
- [Kinderstadt Halle](#)
- [KinderSpielStadt Stutengarten](#)
- [Kitrazza/ Dresden](#)
- [Kleinhayn/ Großenhayn](#)
- [Kulturfenster/ Heidelberg](#)
- [Heidel York/ Heidelberg](#)
- [Los Ämmerles/Ammersbuch](#)
- [Maulwurfshausen/ München-Neuperlach](#)
- [Mini-Calw](#)
- [Mini-Linden](#)
- [Mini-München/ München](#)
- [Mini-Regensburg](#)
- [Mini-Roth/ Roth](#)
- [Mini-Saarland](#)
- [Mini-Schramberg](#)
- [Mini-Umstadt](#)
- [Nasze miasto-Unsere Stadt/ Görlitz](#)
- [Neumünstrum/ Neumünster](#)

- [Neuropoli/ Stuttgart](#)
- [Puzzleheim/ Pforzheim](#)
- [Rainbow City/ Adelberg](#)
- [Ratzelbach/ Stuttgart](#)
- [Rosapolis/ Rosenfeld](#)
- [Schömsala/ Schömberg](#)
- [Simsalon/ Sindelfingen](#)
- [Spielstadt Oberlinschule/ Reutlingen](#)
- [Turbulenzia/ Schwäbisch Gmünd](#)

### **Spielstädte Italien (イタリア)**

- [citta dei bambibi](#)

### **Spielstädte Österreich (オーストリア)**

- [Mini-Salzburg](#)
- [Rein ins Rathaus Wien](#)
- [Kinderstadt Schwaz](#)
- [Kinderstadt Lienz](#)